平成16年度

まちづくり懇談会
記　録　誌

平成17年1月

入　善　町

目　次

まちづくり懇談会の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第１部
　町政についての現況説明
　　スマートＩＣ社会実験について（企画財政課）　・・・・・・・・・・・・8

　　行財政改革の取り組みについて（総務課）　・・・・・・・・・・・・・・・10

第２部
　地域課題・地域づくり
　　入善地区　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

　　上原地区　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

　　青木地区　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

　　飯野地区　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

　　小摺戸地区　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

　　新屋地区　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

　　椚山地区　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62

　　横山地区　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69

　　舟見地区　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76

　　野中地区　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85

まちづくり懇談会の概要

１．開催次第

２．参加者数及び一覧表

――― 平成 16 年度　まちづくり懇談会　開催次第 ―――

日　時：　平成 16 年 11 月２日（火）～16 日（火）
　　午後７時 30 分～
会　場：　町内 10 地区公民館

１．あいさつ

２．町政についての現況説明

３．スマートＩＣ社会実験について

４．行財政改革の取り組みについて

５．地域課題と地域づくりについて

６．閉会

――― まちづくり懇談会参加人数及び一覧表 ―――

地 区 名	参加人数	H15	開 催 日	前 年 比
入　善	69	95	11 月 12 日（金）	▲ 26
上　原	95	120	11 月　８日（月）	▲ 25
青　木	60	45	11 月 16 日（火）	15
飯　野	89	90	11 月 10 日（水）	▲ 1
小摺戸	42	45	11 月　９日（火）	▲ 3
新　屋	68	90	11 月　５日（金）	▲ 22
椚　山	52	60	11 月 11 日（木）	▲ 8
横　山	86	80	11 月　２日（火）	6
舟　見	68	94	11 月 15 日（月）	▲ 26
野　中	28	27	11 月　４日（木）	1
合　計	657	746		▲ 89

<table>
<tr><td colspan="2">日</td><td>11 月 12 日（金）</td><td>11 月８日（月）</td></tr>
<tr><td colspan="2">地　　区</td><td>入善</td><td>上　原</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>武村福祉会館</td><td>産業展示会館</td></tr>
<tr><td colspan="2">区長会長</td><td>沢田　俊彦</td><td>柏原　昇</td></tr>
<tr><td colspan="2">司　　会</td><td>米沢　勇</td><td>金沢　直道</td></tr>
<tr><td colspan="2">座　　長</td><td>米沢　勇</td><td>柳平　貴子</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域課題</td><td>・スマートＩＣについて
・中心商店街及び地区公民館について</td><td>・旧上原小学校の利活用について
・町道上野吉原線の整備について
・交通安全対策について
　農免農道・吉原国道線の交差点
・ゴミ収集について
・不法投棄について
・野良猫対策について
・通学路における外灯整備について</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出席者</td><td>四　役</td><td>町長
助役
収入役
教育長</td><td>町長
助役
教育長</td></tr>
<tr><td>課　長</td><td>企画財政課長
総務課長
建設課長
健康福祉課長
商工水産・深層水課長
生涯学習・スポーツ課長</td><td>企画財政課長
総務課長
建設課長
議会事務局長
住民環境課長</td></tr>
<tr><td>議　員</td><td>上田　健次
大橋　美椰子
東狐　和</td><td>中瀬　範幸
元島　正隆</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>財政係長
企画調整係長
行財政改革推進班長
企画調整係
行財政改革推進班</td><td>財政係長
企画調整係長
行財政改革推進班長
企画調整係
行財政改革推進班</td></tr>
<tr><td colspan="2">参加者数</td><td>69 人</td><td>95 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">世 帯 数</td><td>2,216 世帯</td><td>951 世帯</td></tr>
</table>

日		11 月 16 日（火）	11 月 10 日（水）
地　　区		青木	飯野
開催場所		働く婦人の家	農村環境改善センター
区長会長		松原　宣昭	本多　宗高
司　　会		沢田　久雄	本多　宗高
座　　長		沢田　久雄	本多　宗高
地域課題		・行財政改革の進捗状況と問題点について ・スマートＩＣ社会実験の概要と見通しについて ・資源リサイクルの啓蒙と分別回収の技術的な問題点について ・風水害や地震への備えについて	・企業誘致と雇用確保について ・イオンの出店計画について ・下水道整備計画について ・離岸堤工事の町単独実施について ・空き家の利活用について ・体験交流施設と利活用について ・平曽川国道線の整備計画について ・行財政改革と人件費削減について ・防災対策について ・児童館の整備について
出席者	四　役	町長 助役	町長 助役 教育長
	課　長	企画財政課長 総務課長 建設課長 下水道課長 農政課長 生涯学習・スポーツ課長 保健情報室長 消防署長 住民環境課長	企画財政課長 総務課長 建設課長 商工水産・深層水課長 住民環境課長 健康福祉課長 下水道課長 農政課長（農地係長）
	議　員	松沢　孝浩	本多　幸男 山下　勇
	事務局	財政係長 企画調整係長 行財政改革推進班長 企画調整係 行財政改革推進班	財政係長 企画調整係長 行財政改革推進班長 企画調整係 行財政改革推進班
参加者数		60 人	89 人
世 帯 数		560 世帯	1,537 世帯

<table>
<tr><td colspan="2">日</td><td>11 月 9 日（火）</td><td>11 月 5 日（金）</td></tr>
<tr><td colspan="2">地　　区</td><td>小摺戸</td><td>新　屋</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>小摺戸地区公民館</td><td>新屋地区公民館</td></tr>
<tr><td colspan="2">区長会長</td><td>若島　貞親</td><td>鬼原　猛</td></tr>
<tr><td colspan="2">司　　会</td><td>寺林　輝定</td><td>林　吉朗</td></tr>
<tr><td colspan="2">座　　長</td><td>寺林　輝定</td><td>林　吉朗</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域課題</td><td>・市町村合併について
・再生広場の設置について
・資源回収とごみ問題について
・ふるさと七夕祭の運営と地域の役割について
・地域防犯等組織体制について
・清流黒部川の保全について</td><td>・市町村合併について
・主要地方道入善宇奈月線の早期整備促進について
・防災対策について</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出席者</td><td>四　役</td><td>町長
助役
収入役
教育長</td><td>町長
助役
収入役
教育長</td></tr>
<tr><td>課　長</td><td>企画財政課長
総務課長
建設課長
住民環境課長（環境保全係長）
商工水産・深層水課長</td><td>企画財政課長
総務課長
建設課長
消防署長</td></tr>
<tr><td>議　員</td><td></td><td>長谷　友義</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>財政係長
企画調整係長
行財政改革推進班長
企画調整係
行財政改革推進班</td><td>財政係長
企画調整係長
行財政改革推進班長
企画調整係
行財政改革推進班</td></tr>
<tr><td colspan="2">参加者数</td><td>42 人</td><td>68 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">世 帯 数</td><td>401 世帯</td><td>556 世帯</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">日</td><td>11 月 11 日（木）</td><td>11 月２日（火）</td></tr>
<tr><td colspan="2">地　　区</td><td>椚山</td><td>横　山</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>椚山地区公民館</td><td>横山漁村センター</td></tr>
<tr><td colspan="2">区長会長</td><td>吉田　光夫</td><td>尾谷　善政</td></tr>
<tr><td colspan="2">司　　会</td><td>君島　勝</td><td>亀田　保一</td></tr>
<tr><td colspan="2">座　　長</td><td>君島　勝</td><td>亀田　保一</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域課題</td><td>・通学路の整備について
小杉椚山新線ＪＲガード下
・下水道工事について
・深層水事業について
・災害対策について
・市町村合併について
・旧椚山公民館の利活用について
・道路整備について</td><td>・桃李小学校通学路の整備について
・勤労者総合スポーツ施設グラウンドの拡張整備について
・漁村センターの多目的ホール設置について
・海岸線の整備開発について</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出席者</td><td>四　役</td><td>町長
助役
教育長</td><td>町長
助役
教育長</td></tr>
<tr><td>課　長</td><td>企画財政課長
総務課長
建設課長
生涯学習・スポーツ課長
下水道課長
商工水産・深層水課長</td><td>企画財政課長
総務課長
建設課長
学校教育課長
会計課長</td></tr>
<tr><td>議　員</td><td></td><td>佐藤　一仁
松田　俊弘</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>財政係長
企画調整係長
行財政改革推進班長
企画調整係
行財政改革推進班</td><td>財政係長
企画調整係長
行財政改革推進班長
企画調整係
行財政改革推進班</td></tr>
<tr><td colspan="2">参加者数</td><td>52 人</td><td>86 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">世 帯 数</td><td>750 世帯</td><td>560 世帯</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">日</td><td>11 月 15 日（月）</td><td>11 月 4 日（木）</td></tr>
<tr><td colspan="2">地　　区</td><td>舟見</td><td>野　中</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>舟見コミュニティ公民館</td><td>農村婦人の家</td></tr>
<tr><td colspan="2">区長会長</td><td>野島　政博</td><td>山本　良一</td></tr>
<tr><td colspan="2">司　　会</td><td>中村　捷二</td><td>坂東　久男</td></tr>
<tr><td colspan="2">座　　長</td><td>西尾　俊文</td><td>坂東　久男</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域課題</td><td>・山手地区の活性化対策について
①ふれあい温泉
②通学区域の広域化
・舟見山周辺の整備促進について
①舟見山周辺整備基本計画
②舟川ダムの整備
③ホタルの里づくり
・舟見中学校舎裏プールの整備について
・舟見保育所の改築について</td><td>・町道の消雪（流雪）対策について
①西中～中沢線
②上今江～古林線
③野中～下野線
・防災無線の増設について
・上水道対策について</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出席者</td><td>四　役</td><td>町長
助役
収入役
教育長</td><td>町長
助役
教育長</td></tr>
<tr><td>課　長</td><td>企画財政課長
総務課長
建設課長
健康福祉課長
商工水産・深層水課長
学校教育課長</td><td>企画財政課長
総務課長
建設課長
税務課長
下水道課長（水道係長）</td></tr>
<tr><td>議　員</td><td>九里　郁子</td><td>西尾　政巳</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>財政係長
企画調整係長
行財政改革推進班長
企画調整係
行財政改革推進班</td><td>財政係長
企画調整係長
行財政改革推進班長
企画調整係
行財政改革推進班</td></tr>
<tr><td colspan="2">参加者数</td><td>68 人</td><td>28 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">世 帯 数</td><td>450 世帯</td><td>235 世帯</td></tr>
</table>

町政についての現況説明

１．スマートＩＣ
　　社会実験について
　　・・・企画財政課

２．行財政改革の
　　取り組みについて
　　・・・総　務　課

――― 入善ＰＡに接続するスマートＩＣ社会実験の概要 ―――

１　社会実験申請箇所及び採択箇所

全国申請 35 カ所、採択 27 カ所（一次採択 20、二次採択 7）

２　実験開始予定

・　富山県（入善ＰＡ、城端ＳＡ）は来春の予定

・　約３か月間（全日 24 時間）

３　スマートＩＣを利用できる車両

・利用できる車両・・・ＥＴＣ車載器の搭載車

・利用できる車種・・・軽自動車、普通車

４　利用方向

・上り線（山側）・・・入口専用（入善→富山方面）

・下り線（海側）・・・出口専用（富山方面→入善）

※次頁図参照

５　実験運営に係る各種事業

・ＥＴＣ機械室及び監視員棟設置

――➤２棟（上り、下り各１棟）

・ＥＴＣ機器監視員設置

――➤２名（上り、下り各１名）×３ヶ月

・交通誘導員設置

――➤３名（上り１名、県道２名）×３ヶ月

・誤進入対策

――➤誘導看板設置

――➤上り線仮設信号機設置

・ＥＴＣ車載器搭載助成制度導入

――➤国助成制度と調整のうえ決定

・調査検討業務

――➤交通量、アンケート調査、潜在需要調査等

６　実験に伴う道路改良、拡幅及び用地買収

・高速道路部分（進入路及びＰＡ内）・・・国土交通省の整備

・側道（町道部分）・・・基本的に現状のまま実験実施

・用地買収・・・実験に伴う用地買収はない

7　ＰＲ計画

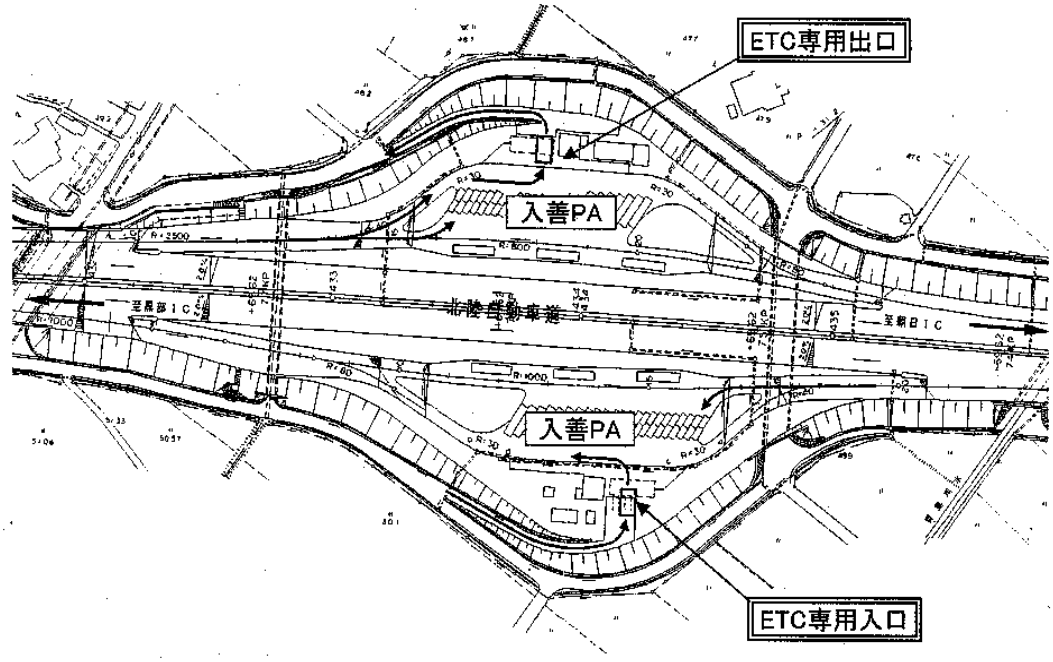
・ＴＶ、ラジオ、新聞、県・町の広報誌、道路交通情報センター

・インターネット、町ホームページ開設

・ポスター、チラシ、実験周知看板

・企業、ＪＡ、商工会、区長会、各種団体との協力・連携

・ＥＴＣモニター制度（アンケート調査）



――― 入善町行財政改革の推進について ―――

１．行財政改革の必要性について

行財政改革は、不断に取り組むべき課題であり、入善町においても、これまで積極的に施策を推進するため、様々な行財政改革を実行し、行政の効率化、合理化を図り、健全財政に努めてきました。

入善町は、１市３町合併協議会から離脱し、当分の間は、「単独町政」を行うことを決定しました。国の「三位一体の改革」により、国から地方への財源移譲の抜本的改革なしに、権限のみ移譲され、地方自治体の財政状況は一層厳しい状況となっています。財政の悪化や少子高齢化の進展等の大きな社会環境の変化の中で、今まで以上に抜本的な改革が求められています。

入善町は、合併しなかったために廃れたといわれないよう、行政サービスを維持しつつ健全財政に努めなければなりません。今年を「行革元年」とし、全ての事業を見直し、地域住民が満足できるような町づくりをすすめてまいります。

そのために、今年を「再生の年」としてスタートし、最小の経費で最大の効果をあげるよう、町民の目線に立って、かつ、町民と一体となって地域の活性化に取り組んでまいります。

２．行財政改革の目的

①入善町の将来像である「扇状地にひと・くらし輝くまち　入善」を実現するまちづくりをすすめるため
②自立を目指す町づくりをすすめるため
③住民サービスを低下させず、町民が安心して豊かに暮らせるまちづくりをすすめるため

３．行財政改革町民懇談会設置について

①町が推進する行財政改革実施計画について、町民各界各層から率直な意見、提言
②民間的（経営的）発想による行政サービスの方策についての意見、提言
③職員の意識改革への意見、提言

４．行財政改革推進の具体的取組み

①「入善町行政改革大綱」の見直し策定（第二次）
②見直しの５重点課題
　Ⅰ　事務事業の見直し
　Ⅱ　組織・機構見直し
　Ⅲ　公共施設管理運営の合理化
　Ⅳ　職員の定員管理等の適正化
　Ⅴ　職員の能力開発の推進

５．見直し策定の対象とする期間

①大綱見直しの対象期間は、平成 17 年度～平成 26 年度の 10 カ年とする。
②重点課題の見直し実施計画期間は、平成 17 年度から５カ年とする。

６．行財政改革大綱見直しについての中間報告の期限

平成 16 年 11 月

７．大綱見直し策定及び実施計画策定

平成 17 年３月

地域課題・地域づくり

入善地区

日時：平成 16 年 11 月 12 日（金）

会場：武村福祉会館

（１）スマートＩＣについて

★企画調整係長

スマートＩＣについて、事故の可能性があるということ、入り口が一方向ということもあるので、その対策はどうなっているのかという質問と、一日も早く上下線とも利用できるスマートＩＣの整備をということでお答えします。

報告の内容と重なるが、３ヶ月間の実験期間中、特に交通安全対策に注意を払っていきたい。実験開始前までに、入善警察署の指導をいただき、道路環境の整備や標識などの安全施設を設置していく。また、実験期間中は、県道と高速道路の側道への出入に対して交通誘導員を 24 時間体制で配置し、交通安全対策をとりたい。また、山側の進入に際しては、誤進入の恐れもあることから、国、県と相談して仮設の信号機を設置し、誤進入車との事故回避を図ることにした。

上下線の開通であるが、まずは数多くの町民の方に実験に参加いただき成果を上げたい。それにより本格設置が近づくものと考えている。また、本格設置に向け、関係機関に積極的に働きかけていくので、ご協力をお願いしたい。

（２）中心商店街及び地区公民館について

★企画財政課長

中心市街地も空き店舗が目立ち始め、「一人でも多くの人たちに利用しやすい商店街を」と考えているが、ＴＭＯ中断等によりさらに空き店舗が多くなるのではという懸念がある。

そこで総合開発のできる公共施設の建設ができないか検討を願いたい。また、地区公民館の建設計画は現在どのようになっているか説明をいただきたいと区長さんから質問をいただいている。

公共施設については、地区公民館と集会施設、いわゆるコンベンションホール等を併せ持つ施設を、旧中央公民館跡地に建設したいと考えている。このため、現在国土交通省に対し、まちづくり交付金の事業申請中である。この補助採択を受けるということは、建設への大きな条件であるので、町として採択へ向けて頑張っていきたい。併せて町は新年度計画の中に位置付けていきたいと考えている。

☆住民

交付金が出るのを待っているということであるが、可能性はどの程度なのか。出ないと建設しないと聞こえるが、進展具合はどうなのか。

★企画財政課長

一所懸命頑張っているとしか言い様がない。財源の問題があるので検討を要するとは思うが、町の気持ちとしては建設したい。駄目なら他の補助制度を探る。国は発表まで可能性について一切明かさない。

★助役

三位一体の改革の中で、税の問題、地方交付税の問題と根本的なところをやっているので、時間がかかるものと思っている。

国での駆け引きがしばらく続いているので、三位一体の改革が出てきてから補助の問題が議論されるものと思う。

よって、補助採択は例年より遅れると考えている。

☆住民

旧中央公民館跡地利用の問題は、国に申請する時点で計画書のようなものは出ていたのか。

★企画財政課長

入善町、中心商店街に暮らす人々にとっての必要性を訴えていくわけなので、施設の規模、部屋割りなど具体的なことを提出する必要はない。具体的なことについては、当然地元の皆さんと協議するべき今後の問題である。

☆住民

商工会としても大いに期待しているところであり、早くできるようお願いしたい。

☆住民

できてくるものが非常にややこしい。公民館としての機能を十分発揮できるスタイルであることが重要である。お金が無いとできないことは十分分かるが、国の補助採択を待たないとできないのか。合併によって地区公民館が無くなって中央公民館に庇を借りる形で 50 年やってきた。年間 1 万人余りのたくさんの人が使用する施設であることを汲んでほしい。

★企画財政課長

公民館機能は十分に果たす。財源は内外共に厳しい状況ではっきりした事は申し上げられないが、とにかく採択に向けて頑張る。

（３）その他

☆住民

海洋深層水体験交流施設を計画しているということであるが、これを建設するのに相当の費用がかかる。維持するにも費用がかかるかと思う。それに見合う利用があるのか疑問である。

例えば、入善町民が朝日町の“らくちーの”をどの程度利用しているか把握しているのか。そういう人たちが新たな施設に足を運ぶ見込みをどのように立てたのか。建設したけれど利用が無いでは困る。

★商工水産・深層水課長

体験交流施設の整備について、現在基本計画の策定委員会が終わり、基本計画ができたところである。近隣の施設との競合が懸念されるが、平成 15 年度の数値では、“らくちーの”の利用者が約 23 万人、舟見のふれあい温泉は９万２千人余りの方が利用している。いずれもお風呂に入るということが利用の主な目的である。

現在計画している体験交流施設については、深層水を活用した健康増進施設ということをご理解いただきたい。温海水のプールの中で軽微な運動をしながら、体力作り、運動不足の解消に心がけていこうという施設である。水の抵抗、浮力を利用しながら水に浮かんでリラックスするということ、施設周辺で海、山を眺めたり、松林を散策したりといったリフレッシュ効果も期待しながら、たくさんの方に利用していただける施設整備を目指したい。

町民の健康増進が目的であることをご理解いただきたい。何よりも、入善町は少子高齢化が進み、高齢化率も 25.3％という状況になっている。医療費の関係についても、国民健康保険あるいは老人保健医療特別会計の額も膨大になっている。こういった中で、少しでも健康で元気な町民作りのために、施設整備をしていきたい。

☆住民

不法投棄について、例えば川原にテレビ等が不法投棄されているといったことに対する町の取り組みはどのようなものか。これに関連するのか、保健衛生委員の役割とは。

★健康福祉課長

数年前に１年ほど環境を担当していた。担当課長が不在であり、詳しくは後ほど区長会を通じてお知らせすることになる。

不法投棄の問題については大変頭の痛いことである。そういう中で、保健衛生委員というより、環境保全監視員という方を町で約 40 人委嘱しており、不法投棄の監視や

町への通報等にご協力をいただいている。

町では不法投棄に対して、ポイ捨て防止条例を制定しながら意識高揚を図っているところだが、町民個人の自覚が一番大切である。お互いを見て注意したり、町へ連絡したりしていただきたい。

☆住民

保健衛生委員の役割についても説明してほしい。

★建設課企画用地係長（前環境保全係長）

入善町保健衛生協議会の役割についてであるが、当初は、戦前戦後の保健衛生事情の良くない頃、頻繁に町の中を徘徊している蚊、蝿、ネズミ等を駆除するのが目的であったようである。その後、国体等の催しが行われる際に、町を綺麗にする社会的な取り組みが必要ということで、衛生というより環境美化、環境保全に役割が推移していった。現在は、町を綺麗にしよう、あるいは地球環境全体ということで、リサイクル運動といったものに活動が移行している。

保健衛生協議会の活動というと、町が主体となる保健衛生活動、環境保全活動を住民の方々に伝えるパイプ役である。各町内に１名の方にお力添えをいただいている。

☆住民

実は、保健衛生委員の方々がごみ処理等の問題について町民の方に注意しようとすると、逆に何様だと言われたという話を聞いたので気になっていた。保健衛生委員の存在を知らないという人も多いと思う。できれば腕章でもお渡しして、保健衛生委員と分かれば委員も活動しやすいと思う。

☆住民

県道の入善駅から国道８号までの拡幅工事が、色々な事情で相当長引いている。町、県の言うままに協力してきた沿線住民は腹を立てている状態であるが、途中で止まっているところについて、今まで何の説明も無いので説明がほしい。今後どのような方向に向かっているのか。

また、元々は小杉線へまっすぐ行く予定が新屋方面へ変更されたが。話の中には入っていなかったはずだが、事情があって変更したのだろう。変更したからには国道８号まで工事してほしい。県道といえども、町にも多大な責任がある。閉店したところもあるし、開店休業のところもある。早急に国道８号まで繋げてほしいし、繋がらないのなら対応を説明してほしい。

★建設課長

県道の整備は、中心商店街の活性化に町も協力して進めている。工事については昨年９月から１年以上経過するが、ようやくあと少しになった。通行には支障の無いようになっているが、大変申し訳ないと思っている。

今後についてであるが、相手のおられることで、皆さんの大事な財産である土地をお願いするので、理解を得ながら進めている。

当初、この事業は平成９年から 15 年で完了の予定であったが、平成 20 年までに延期し、できるだけ早くということでご協力をお願いし、交渉を進めたい。町もお願いには行っているところであるが、なかなかご理解をいただけない。

いずれにしても、国道８号までには取り付けたいと県も町も考えているので、今後も交渉を続けたい。工事の説明についてもその旨県に伝え、県と協議して経過についてご報告したい。

☆住民

どういう理由で工事が止まっているのか。相手が承諾していないからというのは分かっている。どんな問題で進まないのか聞かないと、迷惑がかかっているのに納得できない。

★建設課長

内容については、プライバシーに関わるので詳しいことは私からは言えない。

☆住民

国道８号まで繋がるのか。プライバシーと言われたら我々も手の出しようがない。

★建設課長

今後も積極的に交渉を続け、国道８号まで繋げるつもりでいる。

☆住民

町の行財政改革で、人員の削減を町は考えているのか。

また、地区には 69 の外灯がある。これを維持するために地区は 25 万円の予算を組んでいる。新しい蛍光灯の購入等で金がない。

水の小径の水銀灯は切れたらすぐに交換されるが、町の隅々の外灯は切れたままにされている所もある。

新潟中越地震に関連して、町として自主防災会をもっと大きく。年に１回の訓練でなく、地区としての防災の見直し等色々なことをする構造を進められるか。

★総務課長

まず、行財政改革の職員の削減については、退職者に対して新規の採用を 50%以下に抑えてやってきている。今年４月には 301 名になった。これは全国の財政的、人口的、産業的な類似団体と比較しながら、今後、町民懇談会の中で提案し意見を聞く。検討を進め、３月までにはできると考える。

防犯灯の補助関係は、地区の要請型で、要望に応じて補助している。区長会長に申し出ていただき、必要ならばその中で補助する。補助率は新設が 50%、改修は 100%である。それぞれ地区の要請に応じて行う事業である。

自主防災会の取り組みについて、新潟中越地震の問題もあり指摘される面も多い。特に高齢者の避難体制、ハザードマップ（防災マップ）、的確な情報の伝達が欠けていたということがある。

それらを踏まえ、町では、黒部川洪水ハザードマップという洪水予想図を国土交通省と１市３町で詰めている。黒部川が氾濫した場合に、どれくらいの速さで水が来るのか、深さはどれくらいかを想定し、避難場所、避難経路あるいは報告連絡を載せたマップを作成している。皆さんには、既に防災マップという避難場所を載せたものを配布しているが、これと整合を取り、どんな災害にも対応できるマップの作成を考えていきたい。来年に入りこれが完成すれば、町として防災の初期的な問題を捉えたものを示したい。

☆住民

地震の対策の中でライフラインの整備も併せて検討していただきたい。小千谷市では、阪神大震災の後、ガスの配管を鉄管から塩ビ管に交換したおかげで火災は３件にとどまったと聞く。万一に備えて電気、ガス、水道の整備をしてほしい。

★総務課長

おっしゃる通りだと思う。自主防災は皆さんが自分の命を守る、近所で助け合うということが原則。行政はそれらを救済するため、通信、ライフラインを確保しなければならない。ご意見ということで、今後の防災計画の中で総点検をし、見直しをかけていきたい。

☆住民

国道８号バイパスについて、先日、新川地区の商工会議所と商工会が一緒に、国土交通省北陸地方整備局、県の国会議員の方へ早期着工をお願いしてきた。

話を聞くと、入善警察署前で終わりだということであった。できれば朝日町まで延長していただけないか。入善町は土地の買収は終了し、黒部市と魚津市が難航していると聞いた。

また、国道８号バイパスの工事を続けているが、土地を使って通っていくだけで地元には仕事がない。ぜひ地元に仕事を割いていただきたい。

★助役

11 月９日に、町長の代理で滑川市から朝日町の首長、県議会議員らと国土交通省へ要望に行ってきた。それぞれの町として、市としてバイパス関連の要望を述べてきた。

入善町区間については平成 19 年度までに開始したいと聞いている。非常にありがたいが、入善町としては、黒部－魚津間を早くしてほしい。バイパスがせっかくできても効果が無いのではないかと申し上げてきた。

現状としては、相当遅れるのではないかということである。魚津から入善のバイパスを先にやってしまおうというのが国土交通省の考え方である。これからも精一杯現道の拡幅を要望していきたいが、町として、早くバイパスを完成させてほしいことと黒部－魚津間の工事を早くしていただくことが当面の課題と考える。

★町長

恐らく入善警察署まで２千m近くの現道を拡幅する。入善警察署から朝日町までは、歩道は広げるけれど、道路を広げる整備は入っていない。

元々の交通量が少ないということで計画には入っていない。入善警察署までの整備に 15 年から 20 年かかると聞いているので、その頃には交通量も変わり、拡幅の話が出るかもしれないが、今の段階ではそのような話はない。

まずバイパスを整備してから現道を拡幅しようという話に変わった。黒部－魚津間を通すのが先である。

★建設課長

大きな工事の中には、町の業者もジョイントを組みながら使っていただいており、これからもそのようにしていただけるとは思っている。

――― 入善地区の皆様からのご意見（主なもの） ―――

○合併に前向きな黒部市長に協力的対応を

○寺崎自転車側から小学校への道路が、無理なカーブで危険である

○じょうべのま遺跡の整備（柵など）をしてほしい

○入善駅の特急（はくたか）停車本数を増やしてほしい

○企業誘致や雇用対策の促進を

○天候に左右されない中心商店街の整備を

○役場の２階、３階に受付窓口を

○課長を含めた職員の対応の改善を

地域課題・地域づくり

上原地区

日時：平成16年11月８日（月）

会場：産業展示会館

（１）旧上原小学校残存校舎の解体について

☆住民

旧上原小学校の残存校舎を解体し、駐車場にしてほしい。現状は雨樋が壊れ、基礎の金網が腐食し穴があき、これは野良猫のすみかになる恐れがある。

また、外壁の時計は狂い、産業展示会館が日陰になっている。早急に取り壊していただきたい。

★企画財政課長

旧上原小学校の残存校舎は老朽化しており大変危険である。地元の方や議員の方からも要望があったのに加え、新潟中越地震もあり、早急に取り壊したいと考えている。

校舎内には上原体協の道具が入っているようなので、移動先を決めていただき、条件が整い次第取り壊しにかかりたい。

跡地については地元の皆さんと協議したい。

（２）上野吉原線の整備について

☆住民

ＪＡスタンド前の中途半端な上野吉原線であるが、現在下水道工事中で、学生が通るにしては危ない。早期に整備を完了してほしいが、現状はどうなっているのか。

★建設課長

上野吉原線については、国道８号より 200m下で休止の状態である。地元の皆さんにはご心配やご迷惑をおかけしている。

現在、地権者は、道路整備については反対ではないが、他の理由で承諾が得られない状況である。町では諦めたわけではないが、この区間をしばらく残し、先の整備を進めたい。

地元議員の方にもご協力いただき、地権者の方にお願いを始めたところである。町としては、早期整備に向け努力を続けたいと考えている。

★助役

保育所前からＪマートまでの道路も要望があった箇所である。上野吉原線とあいまって、来年度から着工したいので、ご協力をお願いしたい。

（３）交通危険箇所の信号機設置について

☆住民

農免道路と吉原国道線の交差点について、車もスピードが出ており、国道８号バイパスが開通すればますます交通量も増える。信号機の設置をお願いしたい。

★総務課長

毎年４月に、入善警察署や交通指導員と危険箇所を回っており、現場について了知している。警察と協議をしており、県公安委員会に上げてもらった。最優先になるということなので、周辺を含めて整備していきたい。

また、カーブに差しかかって危険ということで重点的な取締りをお願いしている。

（４）ごみ収集と資源リサイクルについて

☆住民

ごみ収集について、一部地域で収集場所が遠くて不便、ごみの量に対して収集箱が小さいとの声が聞かれる。ごみ収集場所の増設及び収集箱の拡大をしてほしい。

次に、年末年始や祝祭日はごみの収集は休みだが、家庭ではごみが多く出る時期であり、前後の収集回数を増やしてほしい。

また、不燃ごみ、特にプラスチックごみの収集日は週１回、祭日と重なると２週間に１回となる。不燃ごみ収集日を増やしてほしい。

ごみは毎日の問題である。これまで以上に分別、リサイクルに努めていくので、町としても対応していただきたい。

★住民環境課長

収集場所の増設については地元で協議の上決定していただければ対応する。

収集箱についても町が経費の２分の１で 15 万円を上限に助成しているので、ご活用いただきたい。

収集回数の増加については、ご存知の通り、ごみ収集は２市３町で事業を運営している。年末年始や祝祭日は施設を閉鎖しており、また、業者も年末は 12 月 30 日まで最大限の収集に当たっている。

これ以上の回数増は困難である。プラスチックごみの収集が祝祭日に重なる日は、収集日を前後して特別収集しているのでご理解をいただきたい。

（５）ごみの不法投棄と野良猫問題について

☆住民

吉原地区の用水には空き缶や農薬の空き瓶、毛布等の粗大ごみが流れ込み、迷惑している。

平成 11 年よりポイ捨て防止条例が施行されているとのことだが､これらの状況から、町民の不法投棄に対する意識は低いと思われる。チラシや放送等で繰り返し呼びかけ、町ぐるみで取り組む必要がある。当局の考えを聞きたい。

吉原海岸に野良猫が増えている。何匹もの猫が家に入り散らかしたり、畑を荒らしたりして困っている。

これに対し我々は、「海岸に猫を捨てることに対する住民のモラルの高揚を図ること」「一時の同情で捨て猫に餌を与える無責任さの呼びかけ」「猫を飼う心得（飼い猫には首輪をつける、避妊手術をする等）について指導の徹底」を町民全体に呼びかける必要があると考える。町の協力をお願いしたい。

★住民環境課長

不法投棄についてご指摘のとおりであり、町もポイ捨て防止条例を作り町民に呼びかけているが、上流からのごみが下流に溜まっている。嘆かわしいことである。四六時中監視するわけにも行かず、区長を通じて看板を設置している。今後、上流地域へ文書で通知し、呼びかけたい。

野良猫対策はやっかいで、これといった妙案がない。犬は登録制で鑑札がつき、放し飼いが禁止されているが、猫は飼い主が特定できない。捕獲についても容易ではなく、近年、動物愛護の観点から処分に対する批判もある。地域ぐるみでルールを作るのが望ましいと言われている。餌を与えることで猫が増え、また、糞尿が巻き散らされる。餌を与えない、かまわないという地域のルールを作り、違反についても地域で注意を喚起する工夫が必要である。飼い主は、自分の猫の行動に責任を持ち、周りの人に迷惑をかけないよう管理することが肝要である。

海岸への捨て猫対策としてモラルの遵守の啓蒙を図っていきたい。

☆住民

具体策を挙げてほしい。

★総務課長

ごみ、野良猫の問題は区長会や広報を通じ、周知徹底を図りたい。

（６）街路灯の設置と管理について

☆住民

通学の安全確保は地域全体の課題と考える。その点から国道８号上野交差点から新屋に向けては重要な通学路であるので、外灯を増設してほしい。現在、外灯は地区の予算で設置、維持管理しているが、利用者の大部分が他地区住民の場合は、町で責任を持ってもらえないか。

★総務課長

現在 1,500 余りの防犯灯が町内に設置されている。国道８号から新屋にかけての道路に、電柱毎に防犯灯を設置するのは難しく、100mから 150m毎の設置になると思う。防犯灯については、集落で設置し、町でその助成を行う形態をとっている。設置にあたっては地区会で、皆さんでよく話し合ってほしい。町での維持管理ということであるが、年間 600 から 700 万円の電気代と助成に血税を注いでいる。不特定多数の人間が使うのが道路であるので、地域の皆さんのご協力をお願いしたい。

（７）その他

☆住民

新聞報道によれば、12 億円をかけて海洋深層水体験交流施設を建設の予定であるが、８万人の来客で採算ベースに乗るという。この８万人という積算はどこから出たものなのか。これからの自治体は経営感覚が必要である。周辺自治体の様子を見てもリスクの高い施設だと思うがどうか。

★助役

民間の方に入っていただき、体験交流施設の策定委員会を設置している。これまで４回の委員会を開いた。

ご指摘にあったように、経営的な問題、事業所的な問題は当然である。資料については、民間の方で様々な社会条件を含めて作成していただいているが、８万人という数字に関しては委員からも疑問があり、次回の委員会で議論される。

いずれにしても、この件については何らかの形で皆さんにお知らせしていきたい。

☆住民

台風による杉沢の沢スギの被害について、かなりの沢スギを切り出しせざるを得ないようだが、せっかくなので有効に活用する方法を考えてほしい。また、今回の被害

を踏まえて保全対策をどう考えているのか。

★教育長

沢スギの被害では皆さんにご心配とご協力をいただいている。まず調査に対し、ご協力をいただいているが、それをもとに、県や国と連携をとり、指導を受けながら今後の対策あるいは復旧にあたりたい。具体的には、県の推薦を受けた委員、地元の方々、自然に詳しい方々で構成された委員会を設置し、今後について検討したい。

早急にしなければならないこととして、専門の方に見ていただいて、倒木を切るものと起こして再生するものに分け、シルバー人材センターに作業を進めてもらっている。伐採した木は、単なるごみとして処分するにはもったいないので、具体的なアイディアがあれば聞かせてほしい。良い方法があれば検討したい。

☆住民

上野４区は国道８号バイパスが斜め横断するため、新たな三角田がたくさんできている。そういった協力をしているにもかかわらず、都合の悪い旨、要望を国土交通省に出すと、事前説明時に要望がなかったという回答がほとんどであった。

例えば、ボックスの付帯工事が２ヶ所終わっている。夜、真っ暗な町道なので、そちらに照明をつけてくれというと、鉄筋を切るとか高さがとれないなどという回答である。このような調子でまったく要望に応えてもらえない。

国土交通省の説明会の議事録を取っているかと思うが、地区には提示されず、書面に出ていないものには要望が無かったとの返答であった。

また、町を通じて要望を出して、国土交通省の回答から手元に届くまで１ヶ月の間がある。そういうものに対して町がどれだけ国土交通省と話をしているか、こちらとしては分からないが、町の考えはどうか。これから町の協力は無いのか。

★建設課長

国道８号バイパス事業に関しては皆さんにご不便をおかけしている。

要望に対する回答に時間がかかるということであるが、町としてもできるだけ地元の要望を活かしたいということから、一度は駄目だと言われても、その後も二度三度お願いしているためである。ご理解をいただきたい。

照明灯に関してはある程度良いニュアンスも得ているのでこれについては積極的にお願いする。

地区はこれからも要望していくということで、今後について、町も強く働きかけていきたい。

☆住民

行財政改革について、目的、課題は見えるが、それぞれについて目標値は持っているのか。

★総務課長

懇談会でひとつひとつの項目を捕らえて話している。５年あるいは全体として 10 年という期間を考えており、その中で財政効果が出る。いつの時期からやるかはこれから定める。現段階では、懇談会において練られている状況なので、決まり次第お知らせしたい。

☆住民

目標値はできるだけ数値化して、町民が確認できるようにしてほしい。評価は付き物であり、数値化すれば評価しやすい。

☆住民

新潟中越地震の際、町の対応は早かったが、後ほどテレビで見ると、全国からの支援物資が捌ききれないほど届いているということであった。日本の危機管理はどうなっているのか。

個人的には支援物資が重複しないよう、国が担当県を決めればと考えた。町や地方自治体では限界がある。無駄なことをしないよう頭を使ってほしい。

糸魚川・静岡間に活断層もあることから、真剣に危機管理をしておかなければならない。この地震は孫子の代になって生きてくると思う。町も県も防災に関して良くやっていると思うが、それをどう生かしていくのか。

★総務課長

国で決めれば良いのかもしれないが、なかなかそうはいかないのが実態である。入善町では皆さんから暖かい支援物資をいただいた。７月の集中豪雨のときに職員 70 名が活動しているということで、最初の日は見附市のネットワークで物資を近隣に配っていただき、次の日は小千谷市からトイレットペーパー等消耗品の要望を受け、それらを町民の皆さんにお願いし持って行った。町は現地と何が必要なのか連絡をとりながら計画的に支援をしている。

おっしゃったように防災というのは常に危機管理を持つということで、そういう教育をこれから考えていくべきである。地震もあるが、黒部川の決壊もあり、現在洪水について国土交通省と合わせて１市３町で練り上げている。それを皆さんに周知できるような対応を考えていく。自主防災会や町内会、それと行政が連携し、それぞれ役割分担をしながらやっていきたい。

――― 上原地区の皆様からのご意見（主なもの） ―――

○地震計の場所、中越地震時の地震計の動きを広報で掲載してほしい

○環境マネジメント計画の数値を広報で掲載してほしい

○職員の消防団加入を

○街路灯の増設を

○行財政改革マスタープランの早急な作成を

○職員個々が行財政改革に取り組む活動を

○防災に対する町の姿勢や実行方策を確立、徹底するように

○防災対策は最悪のケースを想定し、討論、訓練すること

○沢スギの倒木を沢スギ自然館に展示しては

○温水プールの設置を

○乳幼児期の人格形成の大切さを考えたひとづくりや人材の確保を

○延長保育や休日保育の充実を

○入善漁港に安全に釣りのできる場所を

○観光のアイディアを町民から募集しては

○懇談会はマンネリ化しているので、町長への手紙制度等を実施しては

○役場内での係のたらい回しの対応策を

○野良猫対策の状況把握を

地域課題・地域づくり

青木地区

日時：平成16年11月16日（火）

会場：働く婦人の家

（１）資源リサイクルの啓蒙と分別回収の技術的な問題について

★住民環境課長

平成 15 年４月から容器包装リサイクル法が施行された。分別については各地区での説明会、早わかり便利帳の各戸配布、ＣＡＴＶ等で周知徹底をしてきた。うまくいかない所には出前講座等で指導していきたい。

可燃ごみ、不燃ごみの分別がなされていないと、回収されずに各ステーションに残されるところからご苦労をかけているものと思う。ごみの分別が徹底している例としては、小摺戸や椚山で、ごみ袋に氏名あるいは各戸に付された番号を記入してもらい、出し方の悪い家庭には改善をお願いしている。プライバシーが心配されたが、やってみると特にトラブルもないようである。ごみステーションは地域の管理下にあり、地域の合意が得られれば問題ないと考えている。

その他に地区の保健衛生委員、環境保全監視員、地区役員や有志の皆さんの協力で管理されており、地域全体の意識の向上が大切である。今後もご協力をお願いしたい。

再生広場の設置要望であるが、町では小学校下ごとの設置を目標にしている。今年度建設予定の南部再生広場で町内６ヶ所となり、拠点としてはほぼ充足してきたと受け止めている。

東部、西部、舟見広場ともに余裕がある。また、各地区ごと 104 ヶ所のステーションで月一度回収を行っている。これらから、青木地区のみの再生広場設置は困難と思っている。今後の排出量等の様子を見ながら検討したい。当面は上原再生広場をご利用願いたい。

（２）風水害や地震等への備えについて

★総務課長

まず、先般の新潟中越地震への緊急支援物資のご協力ありがとうございました。

町では災害基本法に基づき、入善町地域防災計画を定めており、基本的には災害の予防、あるいは防災応急対策等を行っている。情報関係では、県本部と停電時にも連絡の取れる災害情報ネットワークを組んでおり、常に台風や地震等の情報が入っている。役場に設置してある地震計もこれを利用し県に情報が送られる。

先般の地震でテレビに震度が出なかったとも言われたが、総点検はしているので今後そういったことはないかと思う。

また、役場玄関には光ファイバー通信で国土交通省から海岸、河川、道路の情報が常に送られている。これらの情報を防災行政無線で皆さんにお知らせしている。被災により防災行政無線が通じなかったり、屋外拡声器の放送が住民に伝わらなかったり

という例もあるが、こういった場合にも的確に伝える情報手段が必要であるので、戸別受信機を中心に普及を図りたい。

弱者の方に対する情報伝達や避難マニュアルについても指摘を受けているので、今後、福祉関係あるいは町民の皆さんと相談しながら作成していきたい。

避難勧告・避難指示の避難行動マニュアルが整備されていないということで、併せて防災計画の見直しを図りたい。

ハザードマップの必要性ということであるが、９月 30 日に第１回黒部川防水ハザードマップ検討委員会として国土交通省黒部河川事務所を中心に１市３町が集まり、検討を進めた。来年３月までに提案の予定である。

ハザードマップは、現在町民の皆さんに配布している防災マップと併せた形にして初動体制等についても盛り込んでお知らせしたい。

（３）行財政改革の進捗状況と問題点について

☆住民

合併が破綻したことで町民はみんな心配している。行財政改革について説明されたが、具体的ではないと思う。そこで４つ提案したい。

１．合併でそうなるはずだったように、助役、収入役を廃止し、課、議員も減らす。

２．地上デジタルも含めてＩＴを徹底させる。

３．役場の仕事を民間委託させる。

４．職員の給与体系の徹底した見直し。

★助役

行財政改革については、懇談会で議論の最中であり、指摘の点も話題になっている。あるものは来年４月から、またあるものは５年、10 年をかけてやっていく。中間報告は 12 月中に懇談会の中で行われる。議員定数の問題等、議会の改革については議会でそれぞれ進めていくので、今しばらくお待ちいただきたい。

☆住民

住民にとっては話が遠すぎて何を言っているのか分からない。町を良くしたいし、心配であるが役場の事があまりに分からない。役場に聞いても、「できない、分からない、知らない」の答えしか返らない。

例えば合併は資産の問題からだということは分かる。そこで個人的に予算書、決算書を見ようとしても前例がないと断られた。図書館では禁帯出となっている。情報公開、説明責任がなされていないのではないか。

議会で情報が町民に伝わっているかということがテーマになったことはあるか。町長は、町民に対して役場の諸事が「できる・できない」の理由も含め伝わっていると考えているか。そう思わないのであればどうすればよいと思うか。

★町長

財政状況については広報でお知らせしている。

☆住民

予算書は個人的に配布してもらえるのか。費用がかかるなら支払う。

★企画財政課長

予算書の公開はしているが、販売はしていない。

★松沢議員

財政状況他、全ての問題について、議会では大きく議論されている。町民への周知徹底、情報公開ということで、様々な席で私なりに説明しているつもりである。至らない点があるかもしれないが、頑張っていきたい。

☆住民

一人当たり 80 万円という県の借金に対し町の借金はどれくらいなのか。

合併破綻後の単独町政では、具体的に何がどう変わるのか。

小中学校、婦人会で行う資源回収に対して町の補助金があるが、カットされると聞いている。補助金がなくなると、近くに再生広場もなく、分別もうまくいっていない青木地区はごみが溢れるのではないか。

★助役

合併問題について、協議会を離脱してからまだ半年も経過していないこともあり、役場側からの評価はしがたい。言えることは、職員の大多数がこれまで以上の意識改革推進をあげてきた。

また、サービス低下を防ぐ方法を職員内で議論している。約 270 項目にもおよぶ。今までなぜやって来なかったかと言われると、職員の意識改革が進んだからであろう。具体策については懇談会でも議論の最中である。

職員をどうするかについては、職員の人材育成計画を作成し、人事評価制度を設け、時代に即して変化したい。どう変わったか、以上数点お答えしたが、評価はこれからである。頑張っていきたい。

★企画財政課長

債務状況について、富山県の債務は約 9,600 億円、一人当たり約 89 万円といわれる。

入善町の債務残高は、現在 112 億円、一人当たり 39 万円である。県下と比べて大幅に下回っており、計画的な財政運営を行っているところである。

併せて基金積立を行っており、平成 15 年度末の積立残高は 58 億円である。債務残高は今がピークであり、２年後には 100 億円を切るものと考えている。

今後さらに計画的な財政運営に努め、改革を進めていくのでご理解をお願いしたい。

★総務課長

133 ヶ所の町内会に振興補助を行っているが、この補助金についてもゼロベースからの見直しが必要と考える。

補助金の必要性、公益性、経済性の観点から十分に精査する必要がある。受益者の影響や近隣の自治体を見て考えたい。

いずれにしても、町民懇談会での話も踏まえて現在審議中である。

☆住民

今の説明でよくわかった。ただ、国が三位一体の改革で補助金をカットすると言ったことがこれまであった。

国の改革とくっつけるのではなく、地域的なことも考えてほしい。

（４）スマートＩＣの社会実験について

☆住民

スマートＩＣの車載器助成について、国と町の両方を受けられるのか。

また、新潟方面への乗り降りができないのはなぜか。

★企画調整係長

日本道路公団による補助は、30 万台を対象にＥＴＣの普及促進のためと聞いている。

町の補助はこれとは別に、実験のために補助を行う。公団の補助は限定台数に到達した時点で終了するので、いつまでになるのかもはっきり分からない。指摘のように、町の補助と重なることもあるかもしれない、としか言えない。

☆住民

４月の実験開始の３ヶ月前からというのは国の決まりなのか。

★企画調整係長

町の制度であり、国の決まりではない。期間は大体の目安である。

☆住民

12 月から前倒して補助はできないか。

★助役

相当に大きな予算になる予定で、議会とのルールがあり、12 月の補正予算を通さなければならない。

また、スマートＩＣ社会実験については、国土交通省、日本道路公団との関係がある。全国 27 ヶ所の実験予定地のうち６ヶ所が北陸整備局管内にある。

町としては、フラワーロードなどのイベントがあり、交通量の多い４月あるいは５月に行いたいと考えている。

新潟中越地震の影響で開始は５月頃かもしれないが、その頃を目途に実験の体制を整えたい。社会実験に参加していただくための基準であるのでご理解をお願いしたい。

また、詳細が決定し次第広報等でお知らせしていきたい。

★企画調整係長

新潟方面への乗り入れができないという件に関して、まず、社会実験は既存の管理用通路等をそのまま利用することが基本となっている。そのためＥＴＣゲート等の設置に必要な道路幅の問題があり、擦れ違いができないため一方向しか設置できない。

入善町の利用者は富山方面への通勤等が多いため、より効果的な実験を行うため富山方面のみを選択した。

ＥＴＣ利用のカード取得の手続きであるが、料金はクレジットカードによる決済となるので、クレジットカードを持っていない方は、クレジットカードを作る際に同時にＥＴＣカードを申し込めば良い。最寄りの銀行等に尋ねると詳しい。

既にクレジットカードを持っている方は、カード会社に問い合わせると必要書類が届き、１週間程度で発行される。

☆住民

料金設定については。

★企画調整係長

料金設定は日本道路公団が行っており、現在のところ町では分からない。

（５）その他

☆住民

合併について、婦中町が妙な事になっている。手続き上の問題ばかりがあげられているが、なぜ合併が必要なのかという本質を住民に提示しなかったことに問題があるように思われる。入善町は同じ轍を踏まないようにしていただきたい。

再生広場は年度毎に１ヶ所という方針なのか。青木地区に設置困難な理由を具体的に教えていただきたい。

★住民環境課長

再生広場が設置困難な理由であるが、まず小学校下を基本単位として設置しているということがある。黒東小学校下の南部再生広場で一通り計画に達する。

中央広場、上原は利用率が高いが、その他はまだ利用が少ないので、しばらく様子を見たい。地区毎に設置すれば利便性は高まるが、運営上の効果は不明であるので時間をいただきたい。

☆住民

青木は飯野か上原を利用と言うが、飯野再生広場は駐車場内にあり、入りにくい。目川や木根は遠い。校区にとらわれず、地図を眺めて設置してほしい。

燃えないごみの中に資源ごみを入れている人が多い。このままではみんなの意識改革ができないのではないか。

★住民環境課長

意見として受け止める。分別について徹底は大変だろうが、地域の皆さんのご協力をお願いしたい。

☆住民

行財政改革について、町の発注している工事の落札率がほぼ 97%以上である現状についての率直な感想を聞きたい。

★助役

発注する側は最小の経費で最大の効果をあげたい。

３年前まで予定価格を公表していなかった。予定価格の事前公表は、談合等の問題もあり議会でも議論してきたが、公開すべきとなった。

下水道課も年間 60 本ほど発注しているが、以前は色々問題があったと聞く。予定価格公開後はそのような問題が一切発生していない。

この３年間、結果としてやってきて良かったと思う。

★下水道課長

下水道工事は管を埋めるだけと思われるかもしれないが、ごくわずかに勾配を付けねばならない難易度の高い工事である。地下の工事で危険も伴う。この落札率は妥当であると考えている。

☆住民

町民の立場から考えると、予定価格に近づけることで結果的に高い経費をかけることに繋がるのではないか。疑問が残る。

★助役

メリット、デメリットはあると思う。しかし、設計とはその工事を達成するためにどうするかが単価になると考える。下水道課長の話にもあったが、工事の特殊性を考えると妥当ではないか。あまり低いと、工事の目的が達成されるかという心配もしなければならない。

☆住民

深層水の知識の取り込み、深層水を利用するという知識の観点から現在どのように取り組んでいるのか。今後の展望としてどのようなプロジェクトを持っているのか。深層水の先進地や研究している大学等は限られていると思うがそれも含めて聞きたい。

町での深層水利用研究会では、県外からもたくさんの発表者が来られた。こういった大会開催は喜ばしい。

深層水施設に行くと全国レベルの研究者がおられるが、アワビについてはお見せできませんということであった。体験交流施設の計画を含め、我々は大いに期待している。現状と今後の展望を聞きたい。

また、お金のかかることではあるが、50 周年記念ふるさと健康ウォークは非常に好評であったと聞く。町のＰＲや周辺施設を考えるということで、継続してもらえるとありがたいが今後はどうか。

★助役

深層水は 100 のうち 10%は解明されたかという未知の世界である。先日の利用研究会で全国から研究者が集まったが、色々研究されていても謎は多いと言う。いずれにしても、未知の分野ゆえにあまり語れない。

町としての大きなプロジェクトとしては、体験交流施設の整備があげられる。実現に向け色んな角度から相談しているが、せっかくの深層水を触ってもらい、そして効

果を体験してほしい。

アワビの養殖に関しても大きな壁にぶつかった。ハードルを越えようと、つい最近アワビの養殖を再開するように研究している。半年位かかると思っている。その他コンブの養殖も行っているし、製塩工場も規模は小さいけれどやりたい。化粧品やアサヒ飲料の発泡酒等への利用もあり、製品は 100 を超えている。あまりお金にはならないが、入善町の名前で全国に展開していきたい。皆さんにも買っていただき、ＰＲしていただきたい。

★保健情報室長

健康ウォークは県内から 500 名の参加があり、非常に好評だった。この事業については、北日本新聞社が県内各地を回って実施しており、富山県においても、ウォーキングに力を入れている。

町内の運動をする習慣のある方は約 30%であるが、その多くがウォーキングを行っている。このことからも、50 周年記念ほどの規模ではなくとも何らかの形で実施するよう協議したい。

☆住民

海洋深層水体験交流施設を建設する土地は、もともと企業誘致をするために取得した土地ではないのか。

★助役

建設予定地は平曽川の東であり、平曽川の西である企業誘致のための土地とは違う。

☆住民

新聞報道によると、温海水プールやアクアリラクゼーションを中心に第三セクターで年間８万５千人の集客を考えているとのことだが、実際問題、海水の温度を上げるのに相当のコストがかかると思われる。しかも、一日当たり 236 人の集客を見込むことができるのか。

施設ができて、後世に負担をかけることがないのか。検討中ではあろうが、非常に疑問を感じる。

朝日町の“らくちーの”は、廃棄物の焼却熱を利用しているが、それでも年間数千万円の燃料コストがかかると言われている。

深層水の利用は各自治体でやろうという話も聞いている。後からできた施設は必ず上を行くと思うが、入善町の規模で本当にこれだけのものが必要なのか、規模の点でも疑問である。

★助役

規模については、身の丈にあった施設でスタートしたい。せっかくの深層水なので売ることも大切だが、健康づくりにも利用し、皆さんに喜んでいただきたい。皆さんに色々な角度から話していただいて、これはという施設にしていきたい。光熱水費についても、いかに押さえるか先進地へ行き研究したい。

☆住民

深層水は、アワビ養殖も工場誘致も失敗しており心配だ。何か結果を出さなければと施設整備になったのではないか。

★助役

何かが駄目だったからこれ、という考え方はしていない。計画の中でやっている。アワビについても 10 月末から本格稼動し、ぜひ成功させたい。

☆住民

深層水に先行投資することには反対しないが、海洋深層水体験交流施設はあの場所で採算は取れないと思う。

ただし、噂になったイオンが進出すればわからない。相乗効果が期待できるし、全く別の展開もできるのでは。ファボーレは年間 130 億円の経済効果があると聞く。町の商業関係者の方は反対であろう。危惧もしている。

しかし、入善町の農業は死んでしまい、集落営農になってしまった。これからどうすれば良いか、これだけインフラがあるにもかかわらず町はほとんど対応を示していない。

もしイオンが進出すれば、入善町ばかりでなく、周辺が様変わりする。信憑性はあるのか。

★助役

おっしゃるように相乗効果はあると思う。しかし現状を言うと、私も新聞報道にはびっくりした。というのは、あの地区は農林水産省の事業対象地域であり、今年度に事業が終了し、その後８年間は開発できないことになっている。イオンほどの一流企業なら知っていると思うが驚いた。

☆住民

農業振興地域であることがネックになることは理解している。しかし、農業は事実上壊滅した。町も農業に関する相当の借金が長く続いている。

青木地区は農業の先進地で、あえて触れたことはなかったが、農業振興地域という

ことが貴重である一方、負担になっている。

法律上国の政策地であるが、構造改革が叫ばれ、先の見えない中で、不安はあるが華やかなニュースが流れた。損をするも得をするもあとは政治力の話ではないのか。

☆住民

行財政改革の目的に「扇状地にひと・暮らし輝くまち」と掲げているが、重点課題は経費の削減という内容である。矛盾はないか。

入善町で余っているのは老人と土地、足りないのは若者と知恵だと思う。職員の能力開発にＩＳＯを取得すべきだ。ＩＳＯを取得しないと組織としてのレベルが上がらない。

道路や駅は地域に影響を与える。黒部市に新幹線の駅ができ、10 年後には入善町に目玉がないと訪れる人はいない。新幹線整備をどう意識しているか。

★助役

環境ＩＳＯは今年の３月 14 日に取得している。ただし本庁のみなので、今年度から新たに保育所・消防署・保健情報室についても環境活動をスタートし、ＩＳＯ推進に取り組んでいる。学校についても実施に向け検討したいと考えている。

新幹線について、どのような形になるか期待をしている。町は何よりも土地と水を全国に誇ることができるので、水をどう活かすかを念頭においている。目玉として水を使ったものをどう展開していくかが課題であるが、ご意見等があればいつでも聞かせていただきたい。

――― 青木地区の皆様からのご意見（主なもの） ―――

○時報の音量を下げてほしい、緊急時のサイレンはテレビニュース等と重ならないように

○議員定数を 10 人程度に削減しては

○黒部市長は合併に積極的だが、入善町はどうするのか

○心豊かな子どもの育成のための教育を

○安心して子育てのできる環境づくりを

○企業誘致を積極的に行ってほしい

○深層水事業に期待しています

○町民の負担になるような大型施設の建設はやめてほしい

○懇談会の開催は町で起きているいろいろな事業や問題に気づかされる良い機会である

○資源回収の報奨金制度の存続を

○再生広場を設置してほしい

地域課題・地域づくり

飯野地区

日時：平成16年11月10日（水）

会場：農村環境改善センター

（１）飯野西部地区の位置付けについて

☆住民

飯野西部地区の農業と工業のバランスを考えたとき、いつでも企業を受け入れる体制があるのか。若者が学校を卒業しても、地元に企業がないために帰ってこられない状況である。

★商工水産・深層水課長

飯野西部地区については、広大な農地を抱える農業地域という面と、国道８号バイパスの沿線という開発性を持った地域としての面があると考えている。

農・工業のバランスと若者の雇用確保のための企業誘致を進めるべきではないかという趣旨については、町としても将来の人口と、若者の定着を考えると、企業誘致が最大の課題と捉えている。しかしながら、企業誘致は一朝一夕とはいかず、なかなか実現しないのが実情である。

飯野地区には広大な土地があり、企業進出に適した地域と言えるが、一方で国の補助金を活用しながら、多くの農業振興関係事業にも取り組んできたところである。広大な農地ゆえに現状では、農地法などの法規制により宅地等への転用が容易ではないということも現実である。

しかしながら、土地は町の活性化のための貴重な資源であり、将来展望に立った土地利用を推進しなければならない。町では現在、土地利用構想策定に向けた調査を行っている。この中において、飯野西部地区を含めた町の将来的な土地利用の基本方針を定めていきたい。

（２）イオン出店計画の現状について

☆住民

昨年のまちづくり懇談会で話しに出たイオンの出店計画について、その後の経過を教えてほしい。

★商工水産・深層水課長

イオンの進出については、以前から様々な情報が報じられている。町への情報も、今年に入ってからは４月中旬に予定地の地権者をはじめ関係地区の区長さんなどに対し説明会が開催されたと聞いている。もちろん地権者全員が同意されたということも正式ではないが情報として聞いている。

５月の後半になって、イオンから町への状況説明と協力要請があり、会社の取り組

み姿勢や今後の計画などについて、口頭で説明を受けた。「地権者の同意を全員から受けた」「農振除外の問題がある」「事業計画が全く示されておらず、基本的な考えが見えてこない」などの意見があった。

６月に入り、地元地権者の代表から町に対して地権者協議会設立とイオンへの全員同意の報告があった。

９月末には、イオンの責任者と地元議員も同席の上、町に提出された「イオン入善ショッピングセンター」の計画概要についての説明を受けた。内容については、イオングループと関連企業によるショッピングセンターの建設を計画概要とし、敷地33,800 坪、駐車台数 2,800 台、場所は国道８号バイパスの山側、平曽川国道線東西約40 枚の田を予定しているとのことであった。年商 130 億円、雇用者数 700 名、総投資額 40 億円を計画し、2007 年春にはオープンしたいという内容であった。

農振除外や農地転用などの法的な問題や補助事業など、今後に及ぼす影響が懸念される。また、地元の皆様の意向なども踏まえながら様々な角度で検討していかなければならないと考える。

☆住民

イオンの進出のポイントは何と言っても土地利用計画ではないかと思う。土地利用計画をどのように考えているのか。その後どのように進めるのか。町はイオン誘致に賛成か反対か、態度を明確にしてほしい。

★企画財政課長

土地利用については年度内に土地利用構想を完成するよう詰めている。飯野地区の平曽川国道線、国道８号バイパスを中核としたゾーンを、商工ゾーンという位置付けをしている。

★町長

当該地域は、平成 16 年度で国の補助事業が完了する。それから町として考えていきたいので、ご理解をいただきたい。

（３）飯野地区の今後の下水道計画について

☆住民

既に完成した地区もあるが、飯野地区全体の下水道整備完了はいつになるのか。今後の見通しについて分かる範囲で教えてほしい。

★下水道課長

現在までに、上飯野新、神子沢、五十里、高瀬、下飯野新ＪＲ海側の約 200 戸の下水道整備が終わっている。飯野全体としては 13%の整備率である。今後、本格的に飯野地区を整備していくが、来年度から園家、下飯野と下から順次進めていく。それに併せて、事業は異なるが、漁業集落排水事業で報徳、芦崎も来年度から測量と計画に入り、平成 18 年度から工事に入る。早ければ平成 17 年度終わりに着工になるのではと予測している。また、高畠、蛇沢、五郎八、三ツ家、農愛、宮坪地区は平成 22 年度までに整備を完了させたい。

飯野全体の下水道整備完了は、平成 25 年度と予定している。なるべく早く整備するよう努力したい。

（４）芦崎海岸離岸堤工事の町単独事業実施の可能性について

☆住民

芦崎海岸には５つの離岸堤がある。現在、国、県の補助事業で３つの離岸堤の災害復旧工事中であるが、残りは離岸堤基準から大きく崩れ落ちているものの復旧の様子がない。

国、県の補助事業に頼らず、町単独事業としてかさ上げをし、住民に安心感を持たせることはできないか。

★商工水産・深層水課長

入善漁港から平曽川にかけて６つの離岸堤が設置されている。

離岸堤の災害認定を受ける場合、消波ブロックの高さの３分の１以上の天端高の不足や沈下などが発生することが条件となっている。従って現在、災害復旧事業により工事中の３基以外の離岸堤については、採択要件を満たす状況にない。

当海岸の離岸堤の場合は、設置当初は沈下量を見込んで、天端高 3.5ｍで施工されている。実際に必要とされるのは３ｍであり、災害の査定に際しては、この３ｍからどの程度天端高が下がったかが審査の大きな基準となることから、かなりの沈下や散乱等の被害が発生しなければ国庫補助事業による災害復旧にはならない。

また、災害の採択を受けるには、１つの要因により、一度に被災することが絶対条件となっている。

ご指摘の１号、２号離岸堤は、徐々に散乱あるいは沈下したものであり、このような場合、町単独事業により対応するしかない。ただ町単独事業となると、相当の費用が必要となり、現状での対応は困難である。

現在の１号、２号離岸堤については、施工当初の状態よりもブロックの散乱等によ

り、離岸堤天端高は幾分低くなっているものの、離岸堤としての機能は十分果たしていると考えており、当分は推移を見守らせていただきたい。

（５）空き家対策と有効利活用について

☆住民

芦崎地区には 30 件ほどの空き家があり、年々増える傾向にある。老朽化により非常に危険な物件もあり、付近の住民から苦情が寄せられている。個人財産という難しい点もあるが、町で専門家の判断により、補修や取り壊しの要請はできないか。

また、利用できる空き家の活用策として、若者の地区離れ対策に若い夫婦に安い価格で斡旋できないか。高齢化対策に、高齢者が集う場所として「憩いの家」的な活用や「富山型デイサービス」の実現を図ることができないか。

いずれも財政的な支援が必要であり、難しい点もあるが、町としての考えを聞かせてほしい。

★健康福祉課長

高齢者の集いの場やデイサービス事業に利用できないかということであるが、現在、高齢者の集いの機会として、ふれあいサロンを 45 ヶ所で開設している。町としても社会福祉協議会を通じて支援をしている。

サロンの場としては地区公民館や自治公民館が使用されており、民間の空き家を利用するまでには今のところ至っていないと考える。

また、富山型デイサービスのような、高齢者、障害者等の複合型福祉サービスを展開する事業主体は民間であり、町が行うことは考えていない。展開したいという事業者がいれば、町としてできる限りの支援をしていきたい。

★企画調整係長

町全体としては 400 件ほどの空き家がある。行政が個人の財産に対してどこまで踏み込んで良いのか、法律的な問題もあり見通せない。災害時の緊急的なものについては、地域の皆さんが所有者について詳しい情報をお持ちなので、地区の方と協力して対策をとっていきたい。

☆住民

例えば、空き家に入って青少年がタバコを吸う、あるいは火事になるといったことが想定できる。

管理する者がいない状況で、隣家が管理するのか区長か、どう対応すれば良いか行

政としての姿勢を示してほしい。個人のプライバシーはあるが、こんな時はこうするといった方向付けがほしい。

★企画財政課長

ご指摘の通り、防火、防犯対策の問題、倒壊の危険も懸念されるが、特に地元の協力がなければ、行政だけでは動けない。区長の方との懇談の席ではこういったことをテーマとして話し合い、できるだけ安全で安心な空き家対策をとっていきたい。

（６）町道平曽川国道線拡幅工事の今後の見通しについて

☆住民

町道平曽川国道線は海洋深層水体験交流施設にも繋がり、整備することにより一層便利になると思われる。完成は平成 22 年頃とも聞くが、進捗状況を聞きたい。

★建設課長

地元のご協力で 3,500ｍの計画のうち、2,700ｍ、約 80％が完了した。800ｍ余りを残し、さらに海側に整備を進める予定である。

しかし、ＪＲ北陸本線や県道魚津生地入善線があり、立体交差となれば協議に時間がかかる。平成 22 年完成との話が出たが、それ以上に時間がかかる見込みである。

我々としてはここまで整備してきた道路なので、できるだけ早く利用する方法を考えている。当面の間はＪＲの手前で県道に取り付け、対応したいと考えている。ご協力をお願いしたい。

（７）行財政改革における人件費等の削減について

☆住民

これまで、役場内の職員の定数を２回にわたって削減してきたとある。重点項目課題の見直しを平成 17 年度から５ヶ年と謳っているが、今後どのような形でどれくらいの人員削減を考えているのか。また、町とは関係ないが、現在 18 名の議員については定数削減をしないのか。

★総務課長

職員の定数適正化について、これまで２度実施してきた。特に第２次計画は、平成 13 年度から 17 年度の５年間で３％削減する計画で、退職者の補充を抑えることで平成

13 年度 328 名を 17 年度 318 名とする目標設定を行ったが、平成 15 年度に 316 名となり、２年前倒しで達成した。現在は 301 名である。今後、全国の、特に産業構造、人口等の類似団体を参考に適正化計画を策定する。

★本多議員

議員定数も減らすことになる。当然、合併すれば１市３町で 90 名の定数を 30 名に減らす予定で、入善枠は９名であった。黒部は 12 名、入善は９名、朝日は６名、宇奈月は３名と決まっていた。合併協議会は離脱したが、このままで良いとは議会も考えていない。近日中に合併の議論を再開させなければならない。合併のあり方については、首長で再構築していただく。

議会では行財政改革特別委員会を設置し、議員定数を主に検討するための議会改革議員協議会も設置した。これは 11 月 9 日に初会合を行った。いろいろな意見が出たが、滑川市の定数を参考に計算すると、14 名ということになる。19 日に２回目の会合を行い、結論を出す。

（８）防災と災害対策・気象観測機器の充実について

☆住民

飯野地区は昭和 44 年に黒部川の水害を経験している。町として具体的にはどのような取り組みをしてきたのか。今後どのような計画をしているのか。

中越地震時に入善町の震度がテレビに表示されなかった。防災無線でも放送されなかった。もしかして気象観測機器が入善町には整備されていないのではないか。観測機器の設置充実を図り、情報を流してほしい。

★総務課長

防災対策の取り組みであるが、国の災害対策基本法に基づき、入善町地域防災計画を定めている。基本的には災害の予防、応急対策、復旧が大きな着眼点であり、必要に応じて実施する。

気象情報や県の高度情報ネットワークシステムを利用して、地震、集中豪雨、津波等の災害に総務課、建設課、消防署、あるいは消防分団が待機、警戒している。パトロール車や消防車で地区を巡回し、現場に立って対応している。

特別な取り組みというと、飯野地区は黒部川に接する地域であるが、現在、黒部川の浸水を想定して、国土交通省と共に「黒部川洪水ハザードマップ」を来年３月までに策定する。その中には、浸水までの時間や避難場所、避難経路等を含めた連絡網を載せる。

できれば現在配布されている防災マップに洪水ハザードマップを織り込みたい。

先ほどのご指摘にあるように、最近の災害を教訓に、情報の円滑で確実な提供のため、防災無線の戸別受信機の普及を図りたい。

また、高齢者等、弱者の避難マニュアルを作成する必要があると考える。

災害は忘れた頃にやってくるものであり、初動に向けた防災体制をつくるため、教育も徹底する。

観測機器については申し訳なかった。１回目の震度３の揺れが朝日町と同様に伝わらなかった。これについては、県の受信回線に問題があったと聞いており、町民からお叱りを受けたことを報告し、再度点検をしたところである。

地震計は県の施工、管理で役場東側に設置し、そのデータは総務課の機器に表示され、また県に送信される。今後このような事故が起こらないように、県にはきちんとした点検、管理を求めていく。

（９）地区児童館建設計画について

☆住民

学童施設の人気が非常に高く、希望者が全員来ることができない。人数の削減をして学童保育を行っている状況である。

今後、子供の数は減っていくだろうが危険のない広い所で子供たちを見たい。飯野地区にも児童館のような施設を設置していただきたい。

★健康福祉課長

現在、専門の児童館は入善地区に２ヶ所ある。今後、町として専門の施設を単独で建設することは財政的に非常に困難であるため、できるだけ既存の公共施設を多面的に利用していただくことが有効であると考える。

飯野地区の学童保育は、特に保護者の皆さまの熱意によって自主的に運営され、非常に大きな成果を上げており、他の地区からも羨まれているかと思う。

利用者が多すぎて部屋に入れないということであるが、将来的に、公民館全体を含めた整備を検討したい。

(10) その他

☆住民

海洋深層水体験交流施設の完成はいつ頃になるのか。

★商工水産・深層水課長

海洋深層水体験交流施設の建設時期であるが、本来平成 16 年度から 17 年度の建設計画であった。しかし、手続きなどで若干遅れをとっており、場合によっては平成 18 年度にずれ込むことも考えられる。

☆住民

入善町東部には概ね防潮林があり、飯野地区には防潮林がない。

聞くところによると、地権者の方は了解しているそうだが、全く整備をする様子がない。どうなっているのか。

県の事業であるが、分かっているところを教えてほしい。

★建設課長

海岸防災林事業については各海岸地域の皆さんから要望を受けている。用地を町が取得し、その後、国の助成を受け県が造成や防災林整備を行うシステムとなっている。

今年度は木根地区を整備中であり、来年度はほ場整備事業に合わせて古黒部地内の整備を県に要望している。事業は４、５年かかると思われ、飯野地区はその後になる。

古黒部地区の進捗状況を見ながら、県には飯野地区の要望をしていきたい。

☆住民

合併問題について、環境が非常に変わってきた中で、行財政改革を含めた町長の考えを聞きたい。

また、日経新聞の１面に県庁所在地の行政サービス調査の記事が載っていた。それによれば富山市は全国でもトップクラスの水準である。金沢市は高サービスで財政状況も悪くなく理想的だが、得てして高サービスの自治体は財政悪化の状況にある。

入善町の水準は、一概には分かりにくいとは思うが、全国的にどの程度の水準なのか。もし分かるようであれば教えてほしい。

★町長

今年の春、合併協議会を離脱して以来、周辺市町から合併の話はない。当面はそのような気運が盛り上がるまで単独でいくつもりで、行政サービスは低下させない行財政改革を進めていきたい。

我々も一生懸命頑張るが、町民の皆さんにもできることはお互いにやっていくというようにしなければならないと考える。色々な面でご協力をいただきたい。

★助役

行政サービスが全国でどの水準にあるかは分からないが、１市３町の合併協議会の

中では、税金などといった負担は入善町が１番低かった。

★財政係長

細かい数値は置いておくが、１市３町の合併協議会の経過を含めてお話する。損得ではなく事実としてご理解いただきたい。

合併をする際に、負担は低く、サービスは高くという水準で合併を進めるという大前提でスタートした。負担を低くとした場合において、全国レベルは不明だが、入善町は税負担が新川地域では１番低かった。固定資産税、国民健康保険税などは入善町に合わせようとしていた。宇奈月町は非常に高い税率で固定資産税を課税している。数字を言ってしまうと入善町は1.5%、宇奈月町は1.7%である。入善町が宇奈月町並みの税率で課税すると、３から４億円の増収となるが、住民の負担増となる。保育料について宇奈月町は税負担が重い代わりに保育料を抑えている。これを例外とすると保育料についても入善町が最も安い。

サービス面は、個別のサービスが色々あるが、押しなべていうと入善町は一定レベルにある。決して低いサービスではないとご理解いただきたい。

――― 飯野地区の皆様からのご意見（主なもの） ―――

○行財政改革を推進する際はサービスの低下をさせないように

○雷被害も防災マップに

○職員、議員、各種委員の定数削減を

○給食業務のセンター化や民間委託を早期に実施してほしい

○将来的に合併は避けられない

○町関連施設の雇用は退職職員ばかりではないか

○黒部市長が合併に積極的だが、その対応は

○下水道工事の早期完了を

○防潮林や堤防、離岸堤整備の早期着工と改修を

○ふれあいいきいきサロンの開催に光熱費的な助成を

○イオンの出店に積極的に取り組んでほしい

○深層水体験交流施設には期待している

○黒部川河川敷の有効利用を

○質問は区長だけでなく参加者が自由にできるように

○役場の夜間業務の実施をお願いしたい

地域課題・地域づくり

小摺戸地区

日時：平成16年11月9日（火）

会場：小摺戸地区公民館

（１）市町村合併の今後について

☆住民

町長は選挙公約として、広域合併を視野に入れて促進を図ると掲げていた。合併に対して熱意を持っていたにもかかわらず、合併は破綻した。広報入善で、合併協議会の離脱について、既存の市町名の不使用を希望したが黒部市に決定したこと、１市３町の中心である入善町に庁舎を置くことも覆ったが、それらが理由ではないとしている。では、合併協議会離脱の真の理由は何なのか。

また、国は平成 17 年３月までに合併しないと特例措置はないと言っている。三位一体改革もあり、この先が心配である。そのために行財政改革を行うのであろうが、ぜひ成功させてほしい。

★町長

合併は避けて通れないことで、いずれはしなければならないと考えている。

しかし、協議会の中では決定されたことが覆されるということが度々あった。一度決定されたことが反故にされるということでは、議会や町民に対する説明責任が果たせない。それでは困るということで、平成 17 年３月までに慌てて合併する必要はなく、原点に返るべきだと考えた。

国の三位一体の改革で、町もそれなりの資産を失うことになる。合併すれば合併特例債が利用できるが、これはあくまで借金である。新市のまちづくり計画作成の中で話をしていたが、それについても決定したことが反故にされるのではという不信感が出てきた。冷静に考え直して、しかるべき時が来れば、再度話し合えば良いと思う。

どのような枠組みになるか分からないが、いつかは合併しなければならないであろう。それまでは単独町政で行財政改革を行っていくので、ご理解いただきたい。

（２）南部再生広場の設置について

☆住民

再生広場の設置場所は、当初南部コミュニティセンターの敷地内と聞いていたが、その後、新屋地区公民館の敷地内になり、最終的には寺林建設の資材置場になったと聞いている。資材置場向かいには民家もあるが了承は得ているのか。規模はどの程度になるのか。また、敷地内の残土等はどうするのか。

★環境保全係長

当初、南部コミュニティセンターの一角に建設する予定であったが、駐車場が狭い

等の問題から寺林建設の資材置場横の土地を買収することになった。

面積にして 557 ㎡を造成して建設の予定である。間口は地元の方の要望で東側にした。残土は隣接する空地によけ、ブロックも全てという訳にはいかないが、そちらに移動してもらうよう調整している。

★財政係長

場所について、寺林建設の全てではない。東側に設置となる。その場所についてはレンガが少し置いてある程度で資材はほとんど無い。一部かかっている資材は、現在の資材置場に移動する方向で話をしている。

☆住民

いつ頃完成の予定か。

★財政係長

工事に半年かかるので、来春までに何とか間に合わせるというところである。手続きは済んでおり、県の認可を待っている。年明けには進むものと考えている。

（３）資源回収とごみ問題について

☆住民

平成 17 年度から婦人会、中学校等の各種資源回収団体への報奨金を打ち切る予定と聞いている。理由を聞かせてほしい。

また、打ち切った場合、どのような事態を想定して、どのような対策をしていくのか。町が思うほどごみの分別意識は定着していないように思う。聞き取り調査では半数以上は報奨金がなくなれば回収はしないかもしれないとのことだった。打ち切りは可燃ごみの増加に繋がる。町の考えを聞きたい。

また、町で古紙回収しているのは野中の「あぐり館」と入善の「すずらん作業所」のみである。再生広場にも古紙の集積場を設置してほしい。

★環境保全係長

報奨金制度は資源循環型社会の構築ために行ってきた。

平成５年の開始当時の１㎏当たり３円から段階的に見直し、平成 17 年度に廃止する予定であったが、古紙の市場が不安定で好転の兆しがなく、回収業者から団体への支払金がない状況である。廃止した場合、町による回収体制の問題もあり、廃止するかどうかも含め、充分検討していかなければならないと考える。

再生広場での古紙回収について、当初はその予定であったが、リサイクル法により古紙回収はできないこととなっている。当面「あぐり館」と「すずらん作業所」の古紙再生広場を利用していただきたい。

新たな古紙回収広場については検討したい。ご理解とご協力をお願いしたい。

（４）入善ふるさと七夕祭りの運営と地域の役割について

☆住民

七夕祭り実行委員会の委員長は町長であり、相当の予算も計上されていると聞く。

まちおこしの一環として認識していたが、商工会だけで決めてしまっている印象を受けた。各地区まで情報を下ろして、町全体として取り組むイベントにしてはどうか。

★商工水産・深層水課長

入善ふるさと七夕祭りは、中心商店街の夏場の購買促進のためのイベントとして、商工会を中心に始まったもので、今年で 35 回を数える。

運営については、昭和 60 年頃より町流し等のイベントに町全体の協力が得られるようにと町長が実行委員長となり、商工会役員のほかに区長連絡協議会、婦人団体の代表の方に企画面で参加いただき、実行については商工会関係団体が行っている。

町としては関係者の意思を尊重するため、運営には口をはさまないというスタンスを取っている。

祭りやイベントなどは、関係者の情熱とエネルギーにより運営されるものであり、それが地域の活性化に繋がると考える。

入善ふるさと七夕祭りの今後の盛り上がりについては、主体である商工会が各団体や地域と連携し、地域活性化に繋がるよう企画し、運営していただきたいと考えている。町はそのために必要なバックアップをしていきたい。

（５）地域防犯等組織体制について

☆住民

最近は犯罪の凶悪化、低年齢化が進んでいる。一方、今年は台風や熊の出没、地震等、非常に災害が多い。

いつ何が起きてもおかしくない時代であるので、日頃からの地域での体制作りが必要であると考える。

しかし、近頃は近所でのコミュニケーションが希薄になり、婦人会組織も弱体化し

ている。その中で、集落単位での非常事態における組織体制作りや教育について、分かりやすく聞かせてほしい。

★総務課長

災害面において、災害時の初期対応をどうするかで、地域住民、行政、自主防災組織の連携に問題があると指摘されている。町はこれまで７ヶ所の自主防災組織を設立させているが、小摺戸、野中、青木地区はこれからの設立となる。組織作りを進めていきたい。

そういった中で、災害時の情報連絡をどうするか、一人暮らし高齢者等弱者の安全確保をどうするか、避難行動のマニュアル化等これらの問題を日頃から教育、訓練し周知徹底していかなければならないと考える。

現在、最も身近な災害は台風や集中豪雨、洪水である。国土交通省と１市３町で黒部川洪水ハザードマップを作成しており、来年３月までに原案ができる予定である。これを用いて皆さんに非常時の行動を周知できるものである。小摺戸地区においては自主防災組織のいち早い発足をお願いしたい。

犯罪面において、特に小摺戸地区は地域防犯パトロール隊を組織化していただき、非常にすばらしい活動をしておられる。町はこれをモデルとして拡大していきたい。

（６）清流黒部川の保全について

☆住民

「全国屈指の清流　黒部川」といわれるが、出平ダムの排砂後、さっぱり鮎が釣れなくなり、水生昆虫も消えた。川というより排砂路になったと感じている。入善都市計画マスタープランの「自然環境の整備または保全に関する方針」という項目に、海岸線や黒部川、小川等においては親水空間の創出とある。計画は色々あるのだろうが、今後どうしたいのか。

★建設課長

排砂については、黒部川にどのような影響を与えているかはっきりとしないが、各分野の専門家で構成される「黒部川ダム排砂評価委員会」では、黒部川、海水面、海底への影響はないとのことである。以前に戻すわけにはいかないが、いかに各方面に影響が無いよう、自然に排砂を行うかが研究され、これまで実施された経過の中で環境調査、あるいは内水面漁協等関係機関へ聞きながら行っている。

排砂は原則６月から８月末までの間、ダムへ基準以上の流入があった場合に実施されるもので、年１回のみである。それ以外の土砂はダムで堆積される。この土砂が１

年余りで変質し、かつ大量に人為的に行われることから論議がされていると思われる。

今後、より良い方法を調査・研究して実施するよう、国土交通省や関西電力に要望していきたい。

また、黒部川の奥山地帯は崩壊地が非常に多いと聞くうえに、降水量も全国の一級河川で１、２ということなので、崩壊した土砂が直接流れ込んでいるのも汚れの原因である。これを防ぐために国土交通省は砂防堰堤の整備を進めているが、崩壊箇所が多くなかなか進まない。今後も働きかけていく。

国土交通省や町は、黒部川に安らぎの空間や公園整備を計画しているので、よろしくお願いしたい。

（７）その他

☆住民

日本で指折りの清流である黒部川が、魚を放流しないと育たないという状況をどう考えているのか。

黒部川の河川敷は黒部市側に比べ、入善町側は寂しい印象であるが、整備はどの程度のもので、いつから利用できるのか。

★建設課長

魚の放流について、国土交通省も池を造ったりしているが、町からも要望を続けていきたい。

公園整備であるが、入善町は自然環境を生かした公園整備を心掛けており、「墓の木自然公園」や「青野自然公園」がそれである。

今回計画しているのは、青野自然公園の下、権蔵橋を挟んで南北に 18 ホールのパークゴルフ場を平成 16 年から 17 年の２年間で整備したい。利用できるのは来年の夏以降の予定である。その中に水洗トイレも整備する。しばらくお待ちいただきたい。

――― 小摺戸地区の皆様からのご意見（主なもの） ―――

○通学路の防犯灯整備をしてほしい

○合併の話を再燃させてほしい

○緊急事態時の組織づくりを早急に

○高齢者世帯の支援を

○深層水の必要性についてロマンを語ってほしい

○町民全てを巻き込んでふるさと七夕祭を盛り上げていけば良いのでは

○まちづくりのための地域リーダーの養成を

○地域の要望は地域で解決すべき

○黒部川の保全は町民の視点に立って行ってほしい

地域課題・地域づくり

新屋地区

日時：平成16年11月5日（金）

会場：新屋地区公民館

（１）市町村合併について

☆住民

１市３町の枠から外れ、単独町政となった。10 月 28 日の新聞の記事に、黒部市長が合併をテーマにしたタウンミーティングを開き、「合併に対して意欲を燃やしている」「近隣の市町と今後協議していきたい」とある。町の行財政改革の中を見ると、単独でいきたいということである。

今後、２市３町になるのか１市３町になるのか分からないが、再度合併の話が出たとき、入善町は単独でいくのか、合併に取り組んでいくのか、町の考えを聞きたい。

行財政改革の内容を見ると、町民の意見を聞いて５点の重点課題に取り組んでいくとある。２月６日に、入善町と区長連絡協議会で合併について話をしたときは、平成 17 年度から 20 年間、今の組織を見直していけば、現在の行政サービスを維持できるとあった。今日の資料では 10 年、平成 17 年度から５年間で取り組むということであるが、この５点についても短・長期的に取り組むとある。どういった組織体制を作っていくのか。

★町長

今回、合併が破綻になったということで、大変ご迷惑をおかけしたものと思う。

あの時は、あのまま合併して果たして入善町にとって良いのかという疑問があった。決定されたことが反故にされるということが度々あった。

そこで今一度、慌てなくてももっとすっきりとした形で考えるためにも、しばらく時間をいただきたいと考えて破綻にした。

黒部市でもタウンミーティングがあり、それなりの話もされたということであろうが、今のところ正式な話はない。

以前からお話しているが、合併はいずれ何らかの形でなされなければならないと考えている。ただ、このような結果になった以上は、時期が来るまでしばらく、今一度足元を見ながら、入善町でできることをやっていこうという結論を出した。

もし、合併に進もうということになれば、もちろん町民の皆さんと充分に相談しながら、議員の皆さんとも論議しながら向かっていくことになる。

しばらくは単独町政を前提としてこれからのまちづくりを進めていきたいと思うのでご理解いただきたい。

★総務課長

当初の 20 年間の財政計画との違いについては、合併する、しないの段階で財政状況の長期的計画の見込みを示したということで、財政的なスキームを表していた。そういった中で入善町は財政をまわしていける。

行財政改革の中で、行財政改革大綱の見直しを 10 年間の目途を立て、基本的な方針、大きな骨組みを 10 年間で立てる。見直しの５点の重点課題を５年計画で組織等の見直しを図る。総合計画も 10 年計画で、前期・後期に分け、平成 18 年度から後期に入る。

そういった整合を図りながら、行財政改革を進めていかなければならないと考える。

（２）主要地方道入善宇奈月線の早期整備促進について

☆住民

昨年の懇談会でも出ていた案件である。県が事業主体でなかなか町には取り組みも難しいであろうが、町からもご協力があり、部分的に工事が進められている。

しかし、今回、町で出された入善都市計画マスタープランを見ると、南北の主要幹線道路と位置付けられている。都市間の連携として非常に大きな役割を担うと思われる。そういったことから、早期整備のお願いと、今後の見通しについて聞きたい。

★建設課長

主要地方道入善宇奈月線については県が事業主体ということで、入善土木事務所で話を聞いてきた。

先日、地元の皆さんが入善土木事務所へ行って説明を聞いて来られたということであるが、入善土木事務所の方では計画としては高速道路から農協の交差点を考えている。

地元の要望からということで、中坪地内を始めに、平成 14 年度から調査・測量を行い、15 年度からは用地買収あるいは家屋移転の補償を進めている。

今年度については、まもなく新幹線を境に 200m余り道路西側を工事発注する予定である。予算の配当の具合もあるかと思うが、順調に行けば遅くとも平成 18 年度までには入善土木事務所が計画している中坪地内を終わらせたい。

その後の整備箇所については、地元の皆さんと協議しながら、町新屋方面かあるいは上村方面に取り組んでいきたいということであった。

話の中で、入善土木事務所が考えていた中坪地内の区間について、地元の皆さんが考えていた区間と若干食い違いがあった。それについて入善土木事務所では再度説明に上がりたいということで、日程等については、町に連絡があればお知らせするが、入善土木事務所と連絡を取っていただきたい。

町としても、この道路については国道、県道、町道を含めた幹線道路網計画の中で位置付けしている以上、早期整備を機会あるごとに入善土木事務所、本庁へ要望していきたい。

（３）防災対策について

☆住民

災害の防止、軽減ということで現在７地区に自主防災組織が設けられている。今回の新潟中越地震のように、いつ、どこで災害が起きるか分からない。今のような防災体制で万全なのか。入善町全体としての防災体制はどうなっているのか。

★総務課長

入善町においては災害対策基本法に基づき、入善町地域防災計画を持っている。それを基に災害の予防または応急対策、復旧を定め災害時に対応していく。町の対策本部ということで総務課、建設課あるいは消防署が台風、豪雨、地震等に備えて常に待機し、警戒体制をとり、場合により防災行政無線でお知らせする。

防災対策の問題点は何か、新潟中越地震や新潟、福井の水害を教訓としながら考えると以下が挙げられる。１．災害時の防災の情報伝達を迅速にする。防災行政無線の戸別受信機の普及率が低い。２．高齢者の避難対策をどうするか。いかに迅速に避難させるか、町内会、自主防災会との連携をとる。３．避難勧告、避難指示、避難行動のマニュアルの整備。４．町民の災害への理解。平常時からの教育が必要である。

身近な災害として、豪雨による黒部川の決壊が考えられ、ハザードマップ作成の必要性がある。現在、国土交通省と調整を図っており、来年の３月までに提示できる。全戸配布し、常にお知らせしつつ、災害時に対応する。

災害情報を的確にお知らせするシステム作りの一環として、自主防災会の結成がある。防災会のあり方も含め、皆さんと話し合いながら検討し、災害時に備えたい。

（４）その他

☆住民

スマートＩＣは本格設置を目指しているのか。町として本格設置のための条件、例えば利用度、人の流れ、車の流れ、人口等の資料があれば教えていただきたい。

また、ＩＣが必要な理由を教えていただきたい。

★企画財政課長

ＩＣの設置は町の 40 年来の悲願である。それがこの度、国土交通省の方でＥＴＣ専用のスマートＩＣを設置しようという動きが出てきた。

入善町としては千載一遇のチャンスであり、このチャンスを逃せば町には今後ＩＣができないかもしれないという状況である。町長を先頭に国土交通省へＩＣの本格設

置を望む旨働きかけ、第１次採択となった。

黒部や魚津のような従来型のＩＣを設置すると 40 から 50 億円の工事費がかかるといわれるが、ＥＴＣ専用のスマートＩＣは最大に見積もっても 10 億円と簡易かつ便利である。この国土交通省の方針に入善町はぜひ乗りたい。

どれだけの交通量があるか、どんな効果が町に表れるかは実験の中で統計、アンケート等をとっていこうと取り組んでいる。

町民の皆様には、ご理解をお願いしたい。

☆住民

入善町から通勤等で他の町へ人が流れている。町の人口はそれほど大きくない。利用度が低いとやめることはあるのか。

★企画財政課長

利用率、経済産業への効果、町民の日常生活の利便性等、試算した資料をあらかじめ国へ提出している。

入善町にＩＣを設置することによる町民の利便性、経済的、物流的発展の好影響あるいは交流人口の拡大、あるいは施設関係の訪問者の利便性を町はセールスポイントとして国へ挙げている。そのデータに基づき、うまく実験できるということで採択されている。

詳しい数値については資料を持ってきてはいないが、綿密なデータを提出して採択となったことをご理解いただきたい。

☆住民

実験結果が思わしくない場合、ＩＣ設置が無くなることはあるのか。

★助役

国土交通省から、実験に対してボーダーラインの話が無い。

ただ言えることは、実験に際して入善町の自動車保有台数、人口等に関するデータを提出して決定した。町の人口により係数が異なり、大都市に比べ１台の割合が大きい。係数は国土交通省で今後決定する。

町としてはたくさんの方に利用していただけるようＥＴＣ車載器の搭載について助成も行う予定なので、皆さんの利用をお願いしたい。

☆住民

普段の流れで、町はどれだけの利用を見込んでいるのか。

★企画財政課長

１日あたり 96 台を推計している。

☆住民

ＥＴＣ車載器の助成は国の助成を想定しているのか。国の助成はいくらか。

★企画調整係長

日本道路公団で、11 月 19 日から５千円の車載器購入助成がキャッシュバック方式で始まり、30 万台を予定している。ＩＣの人員削減に、国はＥＴＣを普及させたいため。

☆住民

町の助成についての条件は。

★企画調整係長

国の助成は、見込みとすれば２月の中旬あるいは下旬まで続くと聞いているので、相乗効果を高める上乗せ助成が良いのかは検討するが、町の助成は、まず第１に今回の社会実験に参加していただくことが目的である。

よって、普通乗用車、軽自動車と車種を限定することを考えている。そして、入善町にお住まいの方、入善町にある企業にお勤めの方といった、利用の見込みのある方を対象にする。これらはまだ決定してはいない。

☆住民

車載器を販売している入善町以外の業者でも安くなるのか。

★企画調整係長

それも含めて検討させていただきたい。助成対象を含めて細部を詰めなくてはならないことがたくさんある。これまでお話に出たことは要望として捉えさせていただく。

実験期間が正式に決定すれば、２、３ヶ月前から始めたいので、皆さんにお知らせしたい。

★助役

助成の開始については、国の実験開始許可の３ヶ月前からを考えているが、統括している北陸地方整備局が新潟中越地震で混乱しているとのことである。近々担当者と整備局へ行き確認したい。実施時期は４月の他７月という話もあるので、確認の上、広報等でお知らせしたい。

☆住民

国は市町村合併を推し進めているが、合併するとどんな特典があり、もし期日まで合併しないと損はあるのか。

★財政係長

合併の特例について、規模による合併特例債と大きく減額される交付税の一定期間据え置き措置がある。

また、人口５万人以上で市のところを３万人以上で市になる等の特例がある。合併特例法は平成 17 年３月までに合併したところとしているが、法改正により１年延長された。

☆住民

もっと簡単に説明をお願いします。

★財政係長

合併の特典として、地方債を当てて色々な事業ができる。これはあくまで借金であり、借金を大幅に許すという特典である。

国から地方へのお金である地方交付税を手厚くするという特典もあるが、現実的に合併した自治体としてはそれほどメリットが無いと言われている。

国も厳しい状況下での配分となるため内容も厳しい。また、借りる意思が無い場合は、特例債もメリットにはならない。

☆住民

防災無線の使い方について、先日の行方不明者捜索の際、男女の区別がされず、詳しい地名も放送されなかった。的確な情報を与えてほしい。

また、捜索の結果を放送してほしい。

★消防署長

詳しい地名についてはプライバシーの問題があるが、男女の区別がされなかったのは消防署のミスであろう。今後気をつけたい。

捜索の結果については放送している。

☆住民

単独町政も財政難から行財政改革を行うが、重点見直し計画の５年間は、課題達成までが５年間と見てよいのか。計画を立てるのに５年か。

★財政係長

向こう５年間を見据えた計画を今立てており、計画に５年ではない。

☆住民

具体的に５年後にどの程度支出が減るのか。数値目標があるなら知りたい。

★企画財政課長

単独町政の場合、財政運営の見通しは５年後に限って見ると、財源は町税、地方交付税、国・県補助金で成り立っており、町税については約 29 億円ベースの予測。地方交付税については約 25 億円、国・県補助金は約 11 億円ベースを見ており、予算規模は約 95 億円前後で、現在の 100 億円から４、５億円の減少見込みである。

これに対し歳出は、組織のスリム化で人件費減が４、５億円、併せて公債費も減少見込みで約１億円、95 億円規模を見込んでいる。なお、住民サービスの低下、諸々の福祉行政の低下は考えていない。

☆住民

質問というより要望である。県道の整備について話があったが、これは新幹線建設着工のときから機会あるごとに地区がお願いしていることである。

災害時に緊急車両が通るのも主要地方道だろう。新屋地区の道路はそれに対応できる状態ではないと思う。それぞれが努力して今日に至ると思うが、少なくとも我々からして見れば公共に対応できうる道路ではない。

除雪関係が整備されて以前に比べれば不自由はきたさないが、除雪にしても業者が２分３分されている関係上、場合によってはまだ新屋線は自由に通れない。

せめて新幹線が整備される頃には目に見えて改善されるものと思っていたが、ようやく一部着工とのこと。住んでいる人はどうなるかと思っているだろう。早期整備をお願いしたい。

――― 新屋地区の皆様からのご意見（主なもの） ―――

○合併破綻後の単独町政で町民に夢と希望、誇りをどう創出させるか

○住民サービスを低下させないまちづくりを

○行財政改革の重点課題をどう進めるか具体的説明を

○子供やお年寄りに優しい行財政改革を

○改革への具体的な取り組みを進めていることは喜ばしい

○除雪時の頼りになるポールの再点検を

○入善宇奈月線の早期整備を

○特産を生かした町のアピールを

○入善町の農業は、大規模農業を奨励するのか、それとも品質重視の農業を奨励するのか

○入善町の豊かな自然環境を後世に残してほしい

○地域社会を発展させるひとづくりを進めてほしい

地域課題・地域づくり

椚山地区

日時：平成16年11月11日（木）

会場：椚山地区公民館

（１）桃李小学校通学路の早期整備について

★建設課長

県道小杉椚山新線のＪＲアンダーを含む歩道の整備については、横山地区からも提起されており、町も重点要望として早期整備をお願いしている。

入善土木事務所でも危険な箇所であり、県道入善朝日線の交差点から未整備区間をぜひ事業化に取り組みたいと考えているが、現在同じ路線の国道８号の上で平成 17 年度完了予定として整備を進めており、終わり次第、本格的にこの箇所に取り掛かりたいとのことである。

（２）下水道工事について

★下水道課長

田ノ又地区と椚山新地区のＪＲ下において工事は完了している。今後の計画としては、平成 17 年から 18 年は小杉地区を野中地区から繋ぎこみ、平成 19 年に椚山２区、３区、平成 20 年に椚山１区、平成 19 年から 22 年は田ノ又地区と椚山新地区のＪＲ上、荒又地区、平成 23 年から 25 年は８号上東側の荒又地区、桜台は平成 17 年の４月から５月を予定している。

また、工事の個人負担金であるが、負担していただくのは工事負担金が 25 万円、これはマス設置の１年後から３年間、年４回の計 12 回で支払っていただく。

他に個人の工事負担として、マス設置後３年以内に行う宅内配管の工事費がある。これは、155 社ある町の指定業者に工事をお願いし、直接業者へ支払をするものである。

使用料は基本料 1,900 円に加え、一人当り 500 円を負担していただく。

（３）深層水事業について

★商工水産・深層水課長

「海洋深層水体験交流施設」の整備については、本年５月に町内外各階層の委員 22 名からなる基本計画策定委員会を設置し、現地調査などを交えながら 10 月に委員会の報告書の提案があった。

提案の主な内容は、施設目的「町民が笑顔で暮らせ、みんな元気で健康増進」を基本テーマに、町民の健康増進を目的としており、深層水をはじめ、地元の資源や産品の最大限の活用、日本海や北アルプスなど周囲の自然環境の活用、公設民営を基本に、事業採算性の重視などが基本的な考えとなっている。

施設の建設場所については、深層水パークに面した平曽川の東側を予定している。

利用客層は子供から高齢者までを対象に、利用料についても極力低い料金設定を考えている。そのためにもたくさんの皆さんに関わっていただき、大いに利用していただけるような施設整備を目指したい。

施設内容は、温海水プールがメーン施設であり、深層水の持つ物理的な効果を得るため、水の抵抗や浮力、水圧などを活用した運動プログラムを提供するとなっている。

これらに対する財源計画については、国や県の補助事業として採択を受けているが、基本計画の趣旨を尊重しながら今後内容を吟味し、限られた財源の中で効率的な整備ができるよう、また議会とも相談しながら形作りに努めていきたい。

（４）災害対策について

★総務課長

入善町で考えられる災害としては黒部川の洪水、寄り回り波の被害がある。

入善町地域防災計画に基づき、災害時の行動を行う。天気予報や富山県の情報ネットワークにより、災害が予想される場合は、町職員が警戒態勢を取り、情報の収集や防災行政無線などを通じて皆さまにお知らせし、災害防止に努めている。

防災対策として、ＣＡＴＶによる速報の検討、迅速な情報発信と戸別受信機の普及、自主防災会との連携のマニュアル化、教育･訓練の徹底、黒部川の洪水ハザードマップと現在の防災マップをリンクさせた町独自のマップ作成を考えている。

自主防災会については、現在７ヶ所で設置されており、残り３ヶ所についても早期に発足させたい。これからは研修、訓練を盛んにし、ＰＴＡ等とも連携して教育の徹底を図りたい。

（５）市町村合併について

★町長

これまでのところ、首長間での話し合いは行われていない。合併については、必要であるという考えについては変わらない。合併の枠組みなど最初から検討しなければならないと考える。合併協議の再開については各町市ともにその気運が高まるまで、当面単独町政でいくことになる。町は町なりに努力していくので皆さんのご協力をお願いしたい。

（６）屋内ゲートボール場の開設について

★生涯学習･スポーツ課長

旧公民館の利用という要望であるが、現公民館は屋内でのゲートボールができることを条件に建設しており、旧公民館は他の目的で利用するいくつかの案が計画中である。したがって、現公民館で行事等調整をして対応願いたい。

また、行事等が重なった場合には、のらんマイカーもあるので老人福祉センター内の屋内ゲートボール場の利用をお願いしたい。

（７）地域振興のための道路環境整備について

★建設課長

町として必要な部分は早急に整備していく。整備にかかるのが遅れがちとの指摘であるが、厳しい財源の中、はっきりしない段階での整備は難しいものがある。宅地造成あるいは商店造成がある程度行われ、情勢を見極めてから用地交渉や関係機関との協議に入るので、ご理解とご協力を賜りたい。

企業誘致を視野に入れての整備も同様に、具体的に進出が決定してから対応する考えである。

現状において早急に整備が必要な道路があれば、後日にでも聞かせていただければ、調査し検討したい。

（８）その他

☆住民

深層水事業におけるアワビの養殖に関して５千万円の赤字が出ているが、町が安易に補填しては企業努力がないのではないか。

★財政係長

５千万円の赤字に間違いはない。

ただし、補助金の５千万円は赤字に対する補填ではなく、アワビがなぜ死亡したかという調査研究のためである。赤字の補填としての補助は今後も無い。

☆住民

行財政改革住民懇談会が設けられ、委員が 15 名いるが、この委員と海洋深層水体験

交流施設の委員が重複している。委員は町から補助金をもらっている団体等の関係者ばかりではないか。委員を選ぶのであれば、町民から無作為に選んで欲しかった。

★総務課長

確かにそういった立場の委員はいるが、そうでない立場の委員も交えて様々な立場から意見を聞いている。

☆住民

教育とは。

★教育長

教育とは人格の形成。学校教育、社会教育、スポーツ等すべて含めて人格は形成されると考える。

☆住民

災害対策について、屋外で災害に遭った場合の情報源として屋外行政無線があるが、椚山新地域は無線の谷間なのか放送が聞こえないことがある。近くに住宅密集地があり、避難場所でもある桃李小学校辺りに設置できないものか。

★総務課長

防災無線の更新時期が２、３年後にやってくる。デジタル化を含めて色々検討していかなければならない。現段階では戸別受信機で対応願いたい。同様の声は聞いているが、屋外拡声器が近すぎても聞きづらくなるということなので今後調査検討したい。

☆住民

町は町民１スポーツということでスポーツ活動を推進している。現公民館でゲートボールをする場合、重いマットを敷かなければならず、競技を行う年代の者には非常に負担である。旧公民館は現在広いフロアにピアノが置いてあるだけなので、共有して使わせて貰えないか。

★生涯学習・スポーツ課長

利用案はいくつか検討中であるが、今後協会と調整を兼ねて話し合いをしたい。

☆住民

行財政改革について、職員の意識改革をして欲しい。

★総務課長

職員の意識改革は我々の使命である。町長が述べたように、行財政改革を進めるにしても、職員全体で行うのだと肝に銘じたい。

ＩＳＯ14001 を取得することで環境にも配慮する職場をつくろうということにおいても意識改革を行っている。

併せて、当然のことではあるが接遇に関しても教育を進めている。役職に応じた講習も行ってはいるが、結果として住民の皆さんの目に見えて成果が表れていないということは非常に残念である。職場点検を行い、再度意識改革を行っていきたい。

☆住民

災害時に停電になり、防災無線が使えなかったとの話を聞く。停電の際にも緊急連絡体制が整うような実地訓練をし、マニュアル化して欲しい。

★総務課長

屋外拡声器、戸別受信機ともに停電の際は電池で作動するようになっている。しかし、９年以上経過しているので再点検の必要性を感じている。ご意見にあった訓練も検討したい。

☆住民

２年前から拡幅が進んでいる長島藤原線と交差する坂東踏切からの道路は通学路として使用されているが、道幅が狭く、子供達にとっては危険だと感じる。

それとは別に、東部再生広場は大変便利なのだが、広場に入る東西に延びる道路は車の擦れ違いができないくらい狭い。冬は特に危険である。

これらの道路に整備計画はあるのか、無いのならば整備を検討していただきたい。

★建設課長

藤原長島線については、地権者の了解を得たところから工事を進めており、今年は藤原地内で工事の予定である。今後の工事に関しては地権者の了解を得ていくことになる。

坂東踏切からの道路であるが、以前、地権者にお願いに上がった際、理解が得られなかったと聞いている。それ以来、交渉はされていないが、今後お願いするにあたっては地元の皆さんにもご協力をお願いしたい。

東部再生広場に通じる道については、現地を確認し検討させていただきたい。

☆住民

現在少子化が非常に大きな問題になっている。保育所は早朝保育や延長保育を行っ

ており、富山市では民間経営に切り替わっているとも聞く。入善町としてはどのように考えているのか。

★助役

現在、行財政改革の懇談会等でも課題となっている。来年度早々にも委員会を立ち上げ、その中で十分に検討していきたい。

☆住民

昨年の懇談会時には合併の気運が高まっており、町長は合併に反対という意見は聞かないと言う答弁をしていたが、結局合併は無くなった。自分は合併しなくてかまわないと思っているので、町長にも自信を持って単独町政に臨んでもらいたい。

――― 椚山地区の皆様からのご意見（主なもの） ―――

○行財政改革は子供や高齢者の負担にならないように

○下水道工事の基本料金の上限設定や子供の無料化などを検討してほしい

○桃李小学校の通学路の早期整備を

○旧椚山公民館をにいかわ苑と共用し、ゲートボール場として利用したい

○男女共同参画推進に予算を

○農業後継者に自立を促すような体制づくりを

○深層水施設への標識等をもっと分かりやすくしてほしい

○深層水体験交流施設には風呂を作ってほしい

○計画段階からの住民参画によるまちづくりの推進を

○住民にできることは住民が行う手法として、直営施行方式の町単独事業の創設を

○懇談会の回数や時間を増やし、ざっくばらんな質疑を

○若者の意見を聞く手段や方法を検討してほしい

地域課題・地域づくり

横山地区

日時：平成16年11月２日（火）

会場：横山漁村センター

（１）桃李小学校通学路の整備について

☆住民

小学校が統合した時からの整備の条件としてあった、椚山のＪＲガード下、旧国道から横山へ向かう交差点、藤原を抜ける所が未整備である。荒又の通学路は農道を拡幅したところもあるが、進捗状況と今後の方向付けを知りたい。

★建設課長

小杉椚山新線のＪＲガード下から入善朝日線の交差点については、町からも県へ要望しており、県の方でも危険性を認識している。入善土木事務所で確認したところ、現在同じ小杉椚山新線で国道上の椚山地区の道路整備を行っているので、平成 17 年の工事終了後、国道下へ工事を移したい考えであるとのことである。町でも機会があるごとに早急に取り掛かるよう、県に要望していく。

また、藤原長島線については、地権者との交渉を進めているところであり、一部は今年にも藤原地内で工事を施工したい。交渉が残っている所についても順次工事にかかりたい。

藤原から入川への道路については、まず桃李小学校と藤原の間の地権者に協力を求め、様子を見ながら古黒部方面へ延ばしていきたい。

☆住民

通学路の一部が整備され、大変喜ばしい。住民としても通学時間帯には交通を控えるようにしている。

ただ、田ノ又地区の坂東踏切近くの 90 度カーブが大変危険であり、ぜひ何とかしていただきたい。また、カーブにはミラーも防犯灯も無く、冬になると帰宅学生の姿が見えないので設置をお願いしたい。

★建設課長

以前、町としても危険と判断し地権者と話をしたが、道路を拡幅すると交通量が増え、さらに子供達に危険が及ぶということで理解を得られなかった。今後、また話し合いをし、地権者の理解を得たい。

★総務課長

防犯灯については、原則として民家、電柱がある所への設置に対して助成を行っている。どちらも無い所への設置は難しいので、今後、道路整備を行う中で道路灯の設置を含め検討していただきたい。

★建設課長

電柱が無いために防犯灯の設置が難しいということであるが、北陸電力に確認したところ、必要な箇所には北陸電力が電柱を設置するとのことである。電柱を設置するに当たって、周辺の農作業等への支障などを地域住民で話し合っていただき、総務課へ届けていただきたい。

（２）勤労者総合スポーツ施設グラウンドの拡張整備について

☆住民

小学校合併前はテニスコートが無く、グラウンドで年間を通じ横山地区の青少年の野球、ソフトボール等各種競技が実施され、また、地区の運動会も横山地区の中心という事で大勢が参加し、非常に活気があった。

しかし、現在はトラックが短く狭い。体協関係者、地域住民の熱い願望と夢であるので、当局の具体的答弁をお願いしたい。

★企画財政課長

新年度ではグラウンド拡張という基本方向で予算措置をする。具体的には地元の皆さんと調整を図りたいが、プールは取り壊しするとしてもテニスコートの取扱いが少し問題になると思っている。

しかしながら、最小の経費で最大の効果を上げたい。もし南側に拡張するのであれば、地権者の理解が必要であるので地元の協力をお願いしたい。いずれにしても新年度で予算措置を行い、来年度からグラウンドの拡張整備に入りたい。

（３）漁村センターの多目的ホールの設置について

☆住民

災害時にＪＲで道路が遮断され通れなくなった場合、横山地区は避難場所として漁村センターに多目的ホールが必要である。特に入善町でも最も高齢化が進んでいるということでもあるので、早く設置していただきたい。

★企画財政課長

事業には優先順位があり、来年度はグラウンドの拡張整備であるので順次整備していきたい。

平成 18 年度からは総合計画の後期計画に入る。周辺一帯は横山地区の中核であるの

で、グラウンド、漁村センター、ゲートボール場、テニスコート等を含めたトータルプランが必要と考える。

計画性のない単発的な整備をするよりも、総合計画の中で位置付けたい。その中で桜並木の利活用、海浜公園なども夜なべ談義で意見があると聞いているので、それらを汲み取りながらトータルプランを考え、後期計画の中に漁村センターの整備を位置付けていきたい。

（４）海岸線の整備開発について

☆住民

まず、私達の財産を守るために離岸提及び副離岸堤の整備と新設の働きかけをお願いしたい。

２点目に八幡地区では防潮林を設置していただきたいという意見が出ている。古黒部地区も被害を受けているが、早急にお願いしたい。今年は大きな被害はなかったが、昨年、一昨年は水田が真っ白になる塩害が起こった。

３点目に、先ほどの海浜公園も関係してくるが、できれば魚津の蜃気楼ロード、黒部の石田、生地のような海岸道路を芦崎から古黒部まで造っていただきたい。

４点目にオートキャンプや釣り等ができるような公園を整備して欲しい。

★建設課長

離岸提、副離岸堤の設置については、国土交通省も計画的に整備を進めており、今年は春日地内で施工中である。

この後、平成 17 年から横山地先で離岸堤を計画している。

海岸防災林については、前年に町で用地買収を行い、次年度に県が工事を施工する。

当横山地区においては、今年度は古黒部地内で一部用地買収を行い、来年度は工事と引き続き古黒部地内の用地買収、できれば八幡地内についても用地買収ができるよう県と協議をしている。県も平成 17 年度の予算編成に入るところであり、できるだけと言っているが、今年は強く要望している。

管理用道路の整備という事であるが、国土交通省に聞いたところ、管理用道路はあくまで管理用道路であり、十分機能しているので現状では拡幅の計画は一切ないということであった。

しかしながら、町の幹線道路計画の中で海岸沿いにある町の施設を効果的に結ぶことからシーサイドロードという仮称の計画を盛り込んでいる。延長距離が長いことから大変な事業費が考えられ、今後は財源確保と併せて関係機関に働きかけていきたい。

★企画財政課長

海浜公園は大変夢のある計画ではあるが、一度にあれもこれも、というわけにはいかず、先ほどのトータルプランの中で順次計画的に図れないかと考えている。

（５）その他

☆住民

町は下水道整備に力を入れているが、強制ではないという事で公共マスの設置を拒否する者がいると聞く。町はどのような対策を行っているのか聞きたい。

★総務課長

拒むという事よりも、法律的には３年以内に設置してくださいと促進している。町においては２万円の商品券を含めて普及を図っている。

いずれにしても、下水道に接続していただくことを原則として整備を行っているということでご理解をいただきたい。

☆住民

町にはポイ捨て禁止条例等あるが、ごみ回収の有料化、分別回収開始と同時に、青島用水に発泡スチロールやペットボトルが大量に流れてきている。

海岸においても、これらのごみが半分以上を占めている。

川の上流から流れてくるものを下流の者が清掃しなければならないことを上流の人たちに知らせ、このようなことがなくなるようお願いしたい。

★総務課長

ご指摘の通り、下流にごみが散乱していることを確認している。区長会を通じてごみの投げ捨てのないよう注意を呼びかけ、協力をいただきたい。

☆住民

通学路の問題であるが、横山地区と椚山地区とでは感覚の違いがあり、小杉椚山新線に横山地区で消雪装置をつけても、その先の椚山地区は県道以外に装置をつけなくても良いという。また、椚山地区の学童がほとんど通らないということもある。コスモ 21 もあるので、国道８号の交差点から横山の交差点までを県道にして欲しい。

☆住民

藤原地区の通学路整備の件であるが、入川から東側は地権者の了解を得ているので

ぜひ早期整備をお願いしたい。また、防犯灯について、当局の話を聞くと地区で勝手に付けてくれというように聞こえた。

★総務課長

防犯灯に関しては、電柱に取付けることが原則である。先ほどの北陸電力の話にあったように、現場を確認しながら地区の相談に応じ、対応していきたい。

電柱設置によるトラブルが発生しているので、この点を含めお願いしたい。ある程度の間隔ごとの設置を検討したい。

☆住民

サンビレッジは、昼間はほとんど利用がない現状であるのでペタンクを行いたい。総合体育館には室内用のペタンクマットがあるが、サンビレッジにおいても設置してもらえないか。

教育委員会に話をすると予算がないと言われる。町民１スポーツと言われて数十年経ち、また、高齢者が４人に１人の入善町であるので、ぜひ予算化していただきたい。

★企画財政課長

必要性を今回はじめて聞いたので、早速、担当課と話を進めたい。

☆住民

スマートＩＣについて、来年４月から３ヶ月間、社会実験を実施するという話だが、具体的にはどういった方向でいくのか。

車載器設置の補助しか具体的な方策はないのか。ＥＴＣ車になれば５万円券が５万８千円分になるなど詳しい説明がないと理解が得られないのでは。具体的な方策があるならばお知らせ願いたい。

★企画調整係長

車載器設置の補助は町単独の助成である。ＥＴＣの車載器の設置促進策は、まず、日本道路公団で 11 月 19 日から５千円のキャッシュバックがある。

その他に、助成として国で平成 17 年４月に予定しているのは、使えば使うほどポイントが貯まり割引になるマイレージ割引制度や、通勤時間帯にＥＴＣを使うと安くなる料金割引制度等の利用・普及促進の考えを練っている。

これらに関しては決定している策もある。町としてはこういった情報、またＥＴＣの利用に必要なカードをどうやって入手するか等広報を使って細かくお知らせしていきたい。

☆住民

子供達と川へ遊びに行き、時間を忘れて川遊びを楽しんだ。これがかつての川の姿であったが、今はそのような川はどこにもない。横山地区の川の一つでも、子供達が遊べる川、親子で楽しめる川を残していただかないと入善町の子供達が郷土愛を無くしてしまう気がする。

三面コンクリートになっているところを壊してくれとまでは言わないが、水と親しめる環境をもっと工夫して欲しい。

★教育長

川ばかりでなく自然というものに対する子供達の教育、あるいは成長の段階における重要性は認識している。ご意見を尊重して、川も含め、どういう風にすべきかという点については自然保護委員の皆さんの意見も聞きながら進めていきたい。

具体的な回答は持ち合わせていないが、方向としては以上のように話を進めているところである。

☆住民

選挙掲示板が藤原公民館から入川の三叉路に移動したが、そこは地区の住民があまり見ない場所であり、人が止まって見るような場所ではない。

また、元々設置していた公民館には掲示板を設置するためにトタンに穴を開けてフックを付けている。公民館に設置しないのならばなぜ後始末をしないのか。

★総務課長

距離的な問題で設置場所を考えたと聞いている。おっしゃることは十分理解できるので、今後十分に検討していきたい。

――― 横山地区の皆様からのご意見（主なもの） ―――

○市町村合併をしてほしい

○三位一体改革と単独町政についての具体的説明を

○桃李小学校の通学路に防犯灯と監視カメラの設置と重点的な除雪を

○桃李小学校の通学路は拡幅のみでなく交通安全にも配慮して早期に整備を

○漁村センターの拡張を

○道路幅の確保のために沿線の垣根や草木の規制を

○ボートヤードの設置を

○利便性だけでなく自然環境に配慮し、自然に親しむことのできる親水公園、海浜公園の整備を

○横山椚山新線に町全額負担での消雪設備の整備を

○桜並木の遊歩道の舗装を

○横山地区に老人ホームを建設してほしい

○行財政改革とは言え、教育・厚生・福祉に関する予算は削減しないように

○大手企業や大規模小売店の積極的な誘致を

○行財政改革を推進する中、深層水体験交流施設など大型建設事業の実施には反対である

○町民の意識改革の必要性を痛感した

○スマートＩＣの常設化を

地域課題・地域づくり

舟見地区

日時：平成16年11月15日（月）

会場：舟見コミュニティ公民館

（１）山手地区の活性化対策について

☆住民

山手地区では年々過疎化が進み、昭和 43 年の編入合併には舟見地区 2,342 人、野中地区 1,360 人の計 3,702 人いたが、現在舟見地区 1,634 人、野中地区 814 人の計 2,448 人と約３分の２に減少した。このような危機的状況を打開できないか住民として不安である。町はこの実情をどう捉えているのか。

ふれあい温泉、舟見山自然公園等の来客数は毎年減少している。施設面、企画面、その他の要因もあると思うが、来客数減少をどう考えているのか。

また、対策として、舟見山周辺整備基本計画に基づく新しい計画はあるか。

★商工水産・深層水課長

町全体として人口増加の策として、企業誘致が一番必要と考えている。交流人口の増加という点でも力を入れていかなければならない。

そういった中で、ふれあい温泉を中心とする交流人口の増大策であるが、町ではふれあい温泉一帯の地域をリゾートゾーンと位置付け、県道からのアクセス道路の整備や舟見山自然公園の整備に努めてきた。

そのようなこともあり、平成 15 年度では、ふれあい温泉利用客については約 92,300 人、バーデン明日の利用客は不明であるが、宿泊客は約 12,800 人であった。合計すると、地元を含め、一帯を訪れる方は少なくとも 11 万人であると考えられる。

これら交流人口をさらに増やしていくために、町としては舟川ダム周辺の整備が一つの契機になるのではと考えている。

例えばダムまでの散策、森林浴のリフレッシュゾーンとならないか期待している。

また、提案ではあるが、ふれあい温泉駐車場を利用して朝市的なものができないか考えてみても良いのでは。特に舟見地区では山菜など豊富な資源があると聞くので、生きがい対策、交流人口の増加に繋がれば良いと思う。

これからも交流人口の増加を模索していきたいので、ご理解をお願いしたい。

（２）小中学校の通学区域の広域化について

☆住民

行政区域の異なる小学校が歩いて３分のところにあるのに、指定された遠方の小学校に通わなければならず、引っ越すというケースがある。過疎化防止にもなる通学区域の広域化について考えを聞きたい。

★学校教育課長

通学区域の広域化が過疎化対策になることも理解できる。

しかし、通学に関しては法的な決まりがあり、市町村は子供を就学させるために必要な学校を設置しなければならないという義務がある。また、保護者は、子供を住所地の学校に通学させなければならないという原則がある。

特例として、保護者の希望で一定の手続きを経て、住所地以外の学校に就学することは可能である。これは、区域外就学と言われ、住所地外の市町村の学校へ就学させる場合、例えば、愛本新の子供がひばり野小学校に通学したいという場合、宇奈月町と入善町の教育委員会が協議しなければならない。

自由に区域外就学できるようになると、市町村が必要な学校を設置するという原則が崩れてしまうので、地理的、通学距離、通学時間などの条件によりやむを得ない場合のみに限られるべきであると考える。

通学しやすいのは良いことだが、子供の集中により、教員の配置、施設の問題等も発生するのでご理解をお願いしたい。

（３）舟見中学校の存続について

☆住民

現在の舟見中学校はひばり野小学校の子供達がそのまま進学しているが、存続について町はどのように考えているのか。

★教育長

財政論も大切だが、教育論として存続させなければならないと考える。

このままでは確かに生徒数は減少の一途であるが、舟見中学校規模の学校は県下に４校ある。現在のところ、今後５年間は二つ以上の学年を一つにする、いわゆる複式学級になるには至らない。ただし、合併を前提の考えと、単独町政の考えでは違いがあるが、単独の場合、いずれは地域、町当局、議会、保護者でこの先どうするかについて検討しなければならないだろうと考える。

（４）舟見山周辺整備について

☆住民

舟見山周辺の早期整備をお願いしたい。

舟見地区では、住民の意思で自発的にホタルの保存会を立ち上げて活動している。

ホタルの餌であるカワニナやホタルの幼生には、汚染されていない綺麗な水が必要である。保存会は熊坂の右側から清水を取水している。

また、周辺は、ホタルのほか色々な小動物の宝庫である。暫定的に軽四が通れるようにしてほしい。

舟見山生活貯水池（舟川ダム）の現在の様子について知りたい。生活貯水池は舟見山整備と密接な関係がある。

★商工水産・深層水課長

舟見地区は、入善町で唯一背後に山地を抱える地区であり、負釣山登山道の整備や舟見城址館を中心として山の本陣など舟見山自然公園を整備してきた。

舟見山周辺の整備については、平成 14 年度に舟見地区の方々から提案を受け、平成 15 年度にそれらを基に自然を生かしたゾーン整備などの構想作りを行った。その一環として、本年度から２ヵ年にわたり負釣山へのアクセス道路である林道の舗装を行っており、登山者の利便性を図っているところである。

その後に舟見山周辺の整備に着手すべきであるが、この事業は、舟川ダム工事に伴う残土を利用しての事業であることから、舟川ダム工事の進捗状況が深く関係する。

後ほど、ダム工事の進捗について説明があると思うが、予定より国からの予算がつかないことから少し遅れ気味である。

一方、周辺整備の財源についても大変厳しい状況であり、着手の見通しが立たない状況であることもご理解いただきたい。

この事業はいわゆる箱物事業と異なり、ホタルの里作りなど自然環境を生かした整備であることから、管理や清掃などの運営について、地域のボランティアなどの協力無しでは成り立たないものである。

今後も自然を守った地域作りにご協力をお願いしたい。町も財源の確保に努めるなど早期着工に向けて頑張りたい。

★建設課長

舟川ダム整備は、県が事業主体のため、県に問い合わせた結果をお知らせする。

平成５年度に生活貯水池整備事業、いわゆる治水ダムとして採択されたが、その後、ボーリング調査等を実施し、公共事業の評価委員会、審査会で諮られ、平成 14 年度に改めて舟川総合開発事業とし、多目的ダムとして建設採択を受け、平成 22 年度の完成予定に向けてスタートした。

県も早々に入善土木事務所内にダム建設課を設置され、意欲的に取り組んでいる。

３年目の平成 16 年度までに、用地買収、補償は全て終わり、橋梁、林道の付け替え工事が進められている。

国の方では、現在工事が行われている箇所についてはできるだけ早く終わらせたい

と考えているようである。また、工事未着工部分については予算が縮小気味で、来年以降も予算の確保は厳しいようである。

来年度はダムまでの林道の付け替えと、ダム工事用の仮設道路を整備し、ダム本体の工事は平成 18 年度から着手予定とのことである。工事には４、５年かかり、完成は当初より１年遅れ、平成 23 年になる見込みである。

町はもちろん、宇奈月町、朝日町の協力の中で構成されている舟川総合開発促進期成同盟会を通じて、早期整備に向けて国、県に働きかけていきたい。

☆住民

熊坂トンネルの建設予定は。

★建設課長

町としても何か財源はないかと苦慮しているところである。今はまだ調査、検討したい。舟見山自然公園の整備の中で方法を探っていきたいのでお待ちいただきたい。

（５）舟見中学校裏旧プールの整理について

☆住民

舟見中学校裏の旧プールの解体を急いでほしい。使用されなくなって 10 年近くになり、危険である。

★企画財政課長

今、町では上原小学校のプールを取り壊したところで、このあとは横山小学校プールの予定である。ここにきて、災害対策の観点から優先順位を付け、老朽化した公共施設として上原小学校の残存校舎の解体、役場の耐震診断、入善西中学校・入善中学校・黒東小学校の耐震補強工事を順次行っていくこととしたい。

舟見中学校裏のプールについては、こういった事情をよくご理解していただき、しばらくお待ちいただきたい。

（６）舟見保育所の改築について

☆住民

平成 12 年度のまちづくり懇談会のテーマとして取り上げて以来、毎年話されていることだが、舟見保育所は建設以来 40 年近く経過しており、老朽化している。

昨年アンケートの結果も町へ提出されたと聞いている。早期改築を願いたい。

★健康福祉課長

舟見保育所の老朽化は、町でも管理している中で十分に認識している。既に総合計画の中に盛り込まれている。

入善町は 14 ヶ所とたくさんの保育所を抱えている一方、少子化の影響で、小規模化しているものもいくつかある。また、国の財政改革、三位一体の改革の中、突然平成 16 年度の保育所運営費の国庫負担金廃止で 1 億円強削減され、町としても対応に苦慮している。

厳しい状況ではあるが、少子化対策として保育サービスは拡充の動きで非常に苦しい。そこで、行財政改革の点からも、小規模保育所を含めた統廃合が課題となっている。町としてはこれを十分に協議してから、平成 17 年度に事業着手したい。

（７）その他

☆住民

合併が破綻し、行財政改革を行う中で巨額の予算を割いて海洋深層水体験交流施設を造る必要性を分かりやすく説明してほしい。町長に、町民に対する説明をもう少ししてほしい。

議員の定数問題について、職員定数は削減するのに議員定数は削減しないのかという話が出ているかと思う。私達の気持ちとしては、できるだけ今の 18 人の定数を維持してほしい。

また、議員報酬を減らすのはどうかという話も出ているが、それはただ目の前を眩ますだけである。定数を減らすことと、報酬を減らすことは雲泥の差がある。この件について、どういう構想でどういう経過なのか。

★町長

行財政改革を進めなければならないのに、なぜ、一方で大きな予算を使わなければならないかということでお答えする。

入善町が海洋深層水を汲み上げたとき、水産分野に７割、非水産分野に３割と色々な面に利用したいということで取り組んできた。

町で将来的なことを考えて、入善町にどんな魅力的なものがあるか検討したところ、当時全国的に見てもあまり例のなかった海洋療法施設が浮上した。町では深層水を健康増進施設に利用してはということで取り組んできた。汲み上げて４年ほどになるので、去年から、将来的な利活用を考えたときに、健康増進のために深層水を使っては

どうかということになった。

また、合併の際にも話していたが、大きな目的として、合併後も「入善町にはこれがある」という魅力あるものが必要ではということで、入善町と言えば深層水、これを利用した健康増進施設を設置するということになった。

色々調べた結果、深層水は体に良いと言われている。特に町では高齢化が進んでおり、４人に１人が高齢者である。「元気なお年寄り」というのは、まちづくりの一方向性として良いのではと思う。今後、具体的にどのような方向性が良いのか、委員会をつくり、協議している最中である。

皆さんにもたくさん利用していただかないと、採算性の問題が浮上してくると思うが、あちこちを見ると単独での黒字施設はそれほどない。

今年視察に行った所は人口が６、７千人の小さな村であった。村長に聞いたところ、２千万円の赤字であるということだった。しかしその反面、医療費が２千万円削減されたということである。医学的根拠はないが、今まで病院へ行っていた方が、施設へ通うようになったことが、健康面で良い結果をもたらしている一因となっているのではないかということである。アンケートを見ると、今まで腰が痛かった人が、施設へ通うようになり治ったということも書いてあった。

施設運営だけで黒字になるのがもちろん一番良いのだが、高齢者の皆さんが健康増進施設へ行くことで元気になり、結果的に医療費が削減され、採算がプラスマイナスゼロになれば良いのではないかと考えている。これからの入善町を考えたときには、そんな施設が必要ではと考える。

議員定数については、議員の方々で色々やっておいでである。恐らく、近いうちにそれなりの結論が出るのではないか。

★九里議員

町が行財政改革に取り組んでいることもあり、議会も公式の議決を受けた会ではないが、議会改革議員協議会を設立した。

先日、初めての会合を開き、それぞれの議員が発言した。そこでは結論が出たわけではなく、どういった考え方で取り組んでいくかということで、19 日に２回目の協議会を開くことになった。今日まで要望があれば提出してほしいと言われていた。

いろいろな意見を聞いており、私も意見が固まっているわけではない。議員になって以来、２回の定数削減が行われた。その目的は経費節減と少数精鋭であった。

私は、議員は住民の代表と言われることからも、せめて旧小学校区に１名の議員は必要との意見を聞いている。

また、野中地区からはどんなに頑張っても議員を出す事ができないとも聞いている。皆さんからも意見を聞き、議員の定数はどうあるべきか一緒に考えていきたい。

☆住民

スマートＩＣについて、ＥＴＣ車載器設置の助成はどのくらいになるのか。

★企画調整係長

設置手数料の半額程度である 3,500 円で調整している。

☆住民

農林水産省の所有であるにもかかわらず、町が海岸沿岸整備として毎年数千万円を予算に計上している。これは全て町が負担することはないだろうが、当然町からの持ち出しが 10%か 20%かあるはずである。しかも職員も２、３人配置している。所有権がないにもかかわらず、なぜ、このような手当てをしなければならないのか。

朝日町の宮崎海岸は、災害復旧はみんな県がやっている。

★助役

入善漁港の施設については町の所有である。漁港については整備を終了して、現在は海岸整備に着手している。海岸整備については、国、県が全額補助している。かつ、職員の給料、賃金についても町の負担はないということになっている。

☆住民

整備新幹線による平行在来線の問題は入善町にとって大変な問題である。ＪＲ西日本は新幹線開通後、在来線から撤退するという。特に糸魚川－魚津間は年間 40 億円の赤字である。前知事はそのことに触れていかなかった。地元県会議員も何も言わない。町も言わない。

糸魚川－魚津間を第三セクター化すると入善町はそれなりの投資をしなければならないであろう。県や、沿線の各自治体、企業も投資しなければならなくなると思う。

しかし、県は大きな借金を抱えていて何をしてくれるのか分からない。地鉄のある黒部市はきっといやだと言うだろう。ほとんどを入善、朝日町で負担しなければならなくなると何十億円と投資しなければならない。

また、ＪＲの施設は貸与か譲渡か。老朽化した部分の修理にも金がかかる。ＪＲが第三セクター化するとどうなるのか。かつての信越線はめちゃくちゃになった。ＪＲの問題について考えてほしい。

★建設課長

新幹線、在来線の問題について、数日前に北陸線沿線の各自治体の担当課長会議があった。初めての会合であったが、この時には富山から向こうの認可が下りていない状況なので、認可が下りた時点で第三セクター化するか、その他の方法があるのかこ

れから検討したいということで、はっきりした事はわからない。
　もし第三セクターになったとしても、出資については、県あるいは沿線自治体になるのか、あるいは県全体の自治体になるのか、経済界にお願いするのか、このあたりもはっきり決まっておらず、今後これらを決めたいということであった。また、協議会を作りたいという動きもある。

☆住民
　舟見保育所のことについて、前年度、意見として耐震等の問題をアンケートとして提出したが、一切回答が返ってこない。どういうことなのか説明してほしい。

★健康福祉課長
　こう言ってはいけないが、私も４月に異動になり、要望書が提出されていたという話は聞いていたが、当然回答されたものと認識していた。大変申し訳ないと思う。
　今の件について、改築と関連して、建築年数と建物の補助金における耐用年数、改修の必要性について老朽化の調査を行い、その結果が出ないと補助金を受けて改築することができないので、調査を行うということになっていたかと思う。
　改めて早急にお返事させていただく。

☆住民
　多くの市町村で各種委員会やタウンミーティング等の様子がホームページに掲載され、何が検討されているか分かりやすい。
　また、財政状況をホームページに掲載している市町村もある。入善町でも、例えば深層水問題の基本計画策定委員会の様子等を公開すれば、町民の理解も増すのでは。

☆住民
　防災行政無線について、舟見の市街地では３分の２以上の人が聞こえていない。
　戸別受信機をもっと購入しやすくしてほしい。一度に４万円支払って１万円戻ってくるよりも、１万円支払って３万円は１年程度の分割払いの方が購入しやすい。

――― 舟見地区の皆様からのご意見（主なもの） ―――

○職員定数、議員定数は削減し、職員の退職者の補充は非常勤に

○行財政改革は具体的に説明し、町民のニーズを把握する努力を

○行財政改革の推進にあたり、無駄がどれだけなくなったのか実績の公表を

○熊坂トンネルの開通を

○舟川ダムを中心とした舟見山周辺の早期整備を

○消雪装置や外灯の充実を

○舟見地区に町営アパートを建設してほしい

○ふれあい温泉周辺の活性化を（ゲートボール場、マレットゴルフ場、朝市の開催、健康施設の設置、飲食店の設置等）

○ひばり野小学校に舟見中学校を同居させてはどうか

○子供達のために自校炊飯の存続を

○舟見保育所の早期改築を

○保育所の統合問題は住民レベルでの調整は困難なので、行政の積極的姿勢を

○ＪＲ入善駅周辺の駐車場整備を

○のらんマイカーの目的地までの経路、時間の短縮を

○深層水体験交流施設建設についてコスト等を具体的な数値で示し説明してほしい

○再生広場で古紙の回収を

地域課題・地域づくり

野中地区

日時：平成16年11月４日（木）

会場：農村婦人の家

（１）町道の消雪・流雪対策の具体的計画について

☆住民

消雪について、特に交差点での工事が進んでいないのではないかと思う。

１．西中－中沢線　２．上今江－古林線　３．野中－下野線の３ヶ所を強く要望する。特に、西中－中沢線は距離が長く冬季の交通に支障をきたしている。上今江－古林線は、朝日宇奈月線の上今江地内の６ｍ道路から東へ150ｍほどの区間である。野中－下野線（保育所通り）は、一部で流雪をしているが保育所から北は未整備である。

★建設課長

挙げられた中には町で路面に水を流したところもあるが、思うように効果が上がっていない部分もある。一般には機械除雪で対応したいと考えている。交差点については今後検討したい。全線となると町の決まりもあるので、後ほど詳しく聞かせていただきたい。

（２）防災無線の増設について

☆住民

現在、野中地区には防災無線が１基のみあるが、この放送が聞こえないという声が多い。今年は熊騒動もあり、ぜひ、東西に１箇所ずつ増設をお願いしたい。

★総務課長

私も上今江地区にいるが、聞こえないときもあるし、聞こえるときもある。風によって状況が異なり、屋外放送は分かりづらい状況である。

防災無線は２年後に免許の更新とデジタル化が控えており、それを見計らって充分な調査、検討が必要と考える。当面は戸別受信機で対応願いたい。１台当たり 47,000円の 20%を補助している。新潟の集中豪雨等見ていると、屋外拡声器の音が聞こえないことが問題になっているので、できれば戸別受信機を活用していただきたい。

☆住民

野中では何軒くらい戸別受信機を設置しているのか。

★総務課長

野中地区では20%くらい、50軒余りが設置している。

☆住民

補助率を上げてほしい。

★総務課長

協議したい。

（３）上水道対策について

☆住民

主に西中地区の問題であるが、集落によっては水道水が不足している所がある。これから冬を迎える関係上、水不足が深刻化するのではないかということも考えられる。

できれば井戸の増設をお願いしたい。また、水道管も老朽化していると思われ、早急に取り替えをして不自由のないようにしていただきたい。

☆住民

西中地区は大変な水不足である。隣の家が風呂に入ると水洗トイレの水も出にくく、バケツ１杯の水を溜めるにも時間がかかる状態である。配管自体が古く、水圧が上げられないという話を聞く。

早急に周囲の地区と同じ様な水圧で水が出るようにしてほしい。

☆住民

これまでも話題になったことがあるが、下水道が始まるとますます水が必要になるのではないかと、今回テーマに挙げた。現在も不足している状態であるが、下水道整備までにはなんとしても改善してほしい。

★水道係長

冬季の水不足と水道管の老朽化ということであるが、西中地区の水圧が低く水が出にくいことについても伺った。

まず、地区の水道は野中簡水として管理運営している。こちらの水源池は二つあり、特に第２水源池は水量が多いと聞いている。二つの水源で水量は充分足りていると推測しており、また、井戸を掘るのに適した所がないということもあり、井戸の増設は考えていない。

生活水ということで、第２水源から第１水源に水を送っているが、その調整バルブを調べて、西中地区まで充分な水が送れるよう調整を検討したい。その他、野中簡水と野中東簡水の接続を考える。将来的には、野中で災害があった場合に、緊急対応策

として舟見からも水を送れるような接続を検討したい。現在も困っておられるということで、早急に検討を進めたい。

水道管の老朽化について、町営の水道管は下水道工事を行う際に老朽箇所を改修する等対応していくが、一部地区は水道組合が管理している。そういったところは各自の財政計画で整備願いたい。下水道工事に伴い、水道管を整備される計画があれば、下水道課まで相談してほしい。

冬季はどの地区でも井戸の水位低下が見受けられるので家庭で消雪に水を使う方は、使用を控えるようお願いしたい。

☆住民

野中の塩ビの水道管は30年余り経っている。

つい最近も同じ箇所で２回もパンクした。その度に町が管理しているのだから区長に連絡が入るのは分かるが、南保さんから連絡が入る。そこでトラブルになることがあるが、下水道課はどう考えているのか。

★水道係長

漏水による工事の断水であるが、地区の事情に詳しい方から連絡が入り、町から向かう関係でその方から連絡していただいているが、これからは町からもご連絡したい。

☆住民

野中の水道管が年に何度パンクしているのか把握しているのか。

★水道係長

今年に入って３回ほど。

☆住民

10 回以上ある。１度は地区全ての班長に連絡を取ったこともある。それだけ班長も手間がかかる。町の広報車もあるだろう。塩ビの水道管の耐用年数は過ぎているので、すぐに対応してほしい。

★水道係長

古い水道管の改修については、下水道工事に伴って行っており、野中地区は下の方から工事が始まっている。

平成17年度、18年度で野中地区の工事は完了の予定である。舟見、野中簡水は特別会計で改修費を計上している。

（４）その他

☆住民

少子高齢化が進み、一人暮らしの家庭が増えている。野中地区の民生委員は男性のみ３名いるが、高齢女性は、男性の民生委員には相談しにくい事も多々あると聞いている。女性の民生委員のサポーターといえるようなボランティアをお願いして、相談や買い物のお手伝いをする人がいればと婦人会で話している。

他の地区ではどのように対応しているのか。

★総務課長

確かに野中地区の民生委員は男性ばかりで、女性は相談しにくいなど問題があるとは思う。今後、３名のうち１名を女性にする等お願いしたい。

社会福祉協議会や婦人会でも補佐的なことをしていることもある。他の地区には女性の民生委員がいる。

★企画財財政課長

地域に根ざしたサポーターをということであろうが、民生委員ばかりでなく、高齢者福祉推進員が町内に 180 名ほどおり、地区で活動している。今後、さらに充実させて、高齢者対策を行っていこうというところである。

また、高齢者ふれあいサロンを作っており、そういった場でお互いの地域で持っている悩みや情報を交換し、役立てている。さらにきめ細かい展開をする必要がある。

今、詳しい情報は足りないので、後日、健康福祉課に回答させる。

☆住民

企業誘致について、魚津の松下電器の誘致にも力を入れていたと聞いている。入善町で工場が無いのは野中地区のみである。

こういった社会情勢で地区への企業誘致は難しいと思う。できれば工場を持ってきてほしい。今まで以上に誘致に頑張ってほしい。

★町長

これまでの取り組みの中から、工場の誘致にはまず水、土地、そしてできれば排水で問題の起きない所、また大きい要素に地盤のしっかりした所などが工場誘致の条件となる。

野中地区への工場誘致については、果たして野中地区にそれだけの水があるかどうかということが問題となる。

将来的に舟川ダムができ、その水を工業用水として使えれば話は別だが、現在のと

ころは消雪用の使用についてのみお願いをしており、工業用としては調べてみないと分からない。

水があまり関係のない業種であれば見晴らしも良い所であり、地元の気運があれば、皆さんに協力をお願いしたい。

☆住民

職員の定数減など、世の流れとはいえ、企画立案は人の手による。いたずらに職員を減らすのではなく、セクションによっては一定の人員を置いてほしい。

始めに削減ありきではなく、財政事情に対応させて人的資源を確保すべきであり、多面的措置を検討していただきたい。

また、議員定数の将来を町長はどのように考えているか。

★町長

議員定数については議会で委員会を作り、定数等の問題については今年中に結論が出る予定である。議会については議員の方が検討中であり、私からは言えない。

合併の際にも色々話はされているので、十分に納得のいく結果が出るのではないかと考えている。

むやみに人員を減らせば良いとは考えておらず、サービスを低下させてまで人員は減らさない。

ただ、できるものは統合することにより人員を減らすというものである。将来的に保育所を民営にできるものは民営に、統合できるものは統合する。小学校についても同様に考えねばならないと思う。

役場は組織機構の枠を大きくして、忙しい月、そうでない月のバランスを取り、分かりやすくスリム化していきたい。

――― 野中地区の皆様からのご意見（主なもの） ―――

○野中地区に防災倉庫の設置を

○地区の避難場所の収容人員や安全性について再確認を

○野中地区に若者向けの町営住宅の建設を

○野中東公園のトイレにも下水道を設置してほしい

○中沢公民館新屋側の十字路に消雪装置の設置を

○あぐり館の今後の管理運営をどのように考えているのか

○入善にスマートＩＣができても黒部ＩＣが近いので利用しません